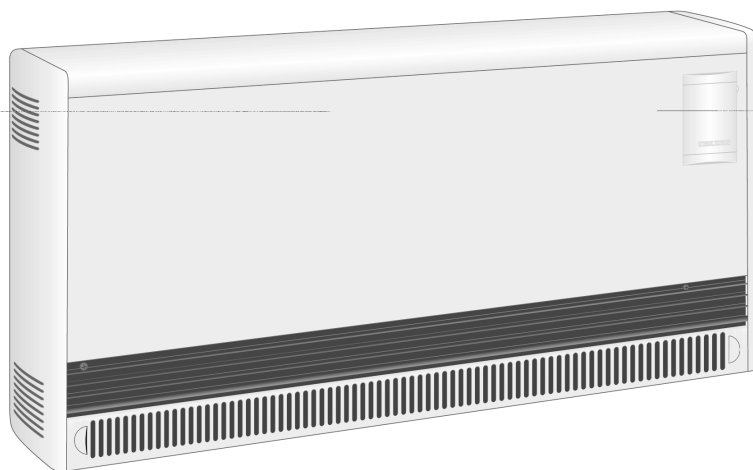
STIEBEL ELTRON

蓄熱式電気暖房器
取扱説明書
（取付説明書、保証書付）

型　名……●ETT-350TJT
●ETT-500TJT
●ETT-350TJ
●ETT-500TJ

品　名……エルサーマット
ETT-Tシリーズ

●本製品を安全に使用していただくために、取扱説明書本文に記載されている警告表示の部分は、製品をご使用する前によくお読みの上、正しくお使いください。
表示の内容は誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠警告　この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者が死亡、または重傷を負う可能性、及び重大な物的損害の発生が予想される内容を示しています。

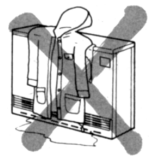
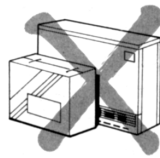
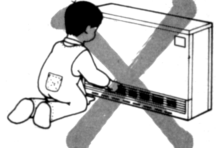
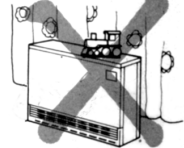
⚠注意　この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者が損害を負う可能性、及び物的損害の発生が予想される内容を示しています。

日本スティーベル株式会社

[目次]

取扱説明書

1 安全上の注意…… 1
1−1 取扱について …… 1
1−2 据付について …… 1
1−3 使用上の注意 …… 2
2 各部のなまえ…… 2
3 操作部のはたらき…… 3
4 運転のしかた…… 3
4−1 室温設定のしかた …… 3
4−2 蓄熱量設定のしかた …… 4
4−3 タイマーの取扱いについて … 4
5 暖房器を使い始めるまえに…… 5
6 こんな時は…… 6
7 日常の点検とお手入れ…… 7
7−1 本体 …… 7
7−2 吸気グリル …… 7
8 故障かな？と思ったら…… 9
9 点検および修理について…… 11
10 仕様…… 12

取付説明書

1 各部のなまえ …… 14
2 部品の確認 …… 14
3 オプション部品 …… 15
4 標準仕様 …… 15
5 取り付け前の注意 …… 16
6 シーズンセンサーの設置のしかた … 18
7 ETT−TJTタイマーキットの接続方法 … 20
7−1 タイマーの取り付け…… 20
7−2 タイマーの接続について…… 21
7−3 タイマーの時刻及び プログラム設定について…… 21
7−4 タイマーのスイッチについて… 21
8 外付ルームサーモ(オプション)の 取扱いについて …… 22
RTA−100
1 各部の名前／仕様…… 22
2 取付前の注意…… 22
3 施工方法…… 24
4 内蔵室温センサーの取り外し…… 24
5 壁取り付け方法…… 24
6 運転のしかた…… 25
9 本体固定の手順 …… 26
9−1 吹出しグリルと吸気グリルを外す … 26
9−2 前面パネルを外す…… 26
9−3 バッフル板を外す…… 27
9−4 右面パネルを外す…… 27
9−5 左面パネルを外す…… 27
9−6 電源を接続する…… 27
9−7 整流板の取り付について…… 28
9−8 本体を固定する…… 28
9−9 床に固定する…… 29
10 蓄熱体の組み込みかた …… 30
10−1 デバイドケースを外す …… 30
10−2 ファンモーターの養生 …… 30
10−3 蓄熱体 …… 30
10−4 蓄熱体を組み込む …… 30
10−5 バッフル板を取り付ける … 31
10−6 ファン周辺を掃除する …… 32
10−7 デバイドケースを固定する … 32
その他 ファンを外す場合…… 32
11 結線の確認 …… 33
12 本体パネルの取り付けかた …… 34
12−1 側面パネルを取り付ける … 34
12−2 前面パネルを取り付ける … 34
12−3 吹出しグリルと 吸気グリルを固定する …… 35
13 インターフェイスの接続方法 …… 35
14 試運転の手順 …… 36
こんなときは？ …… 38
保証書 …… 40

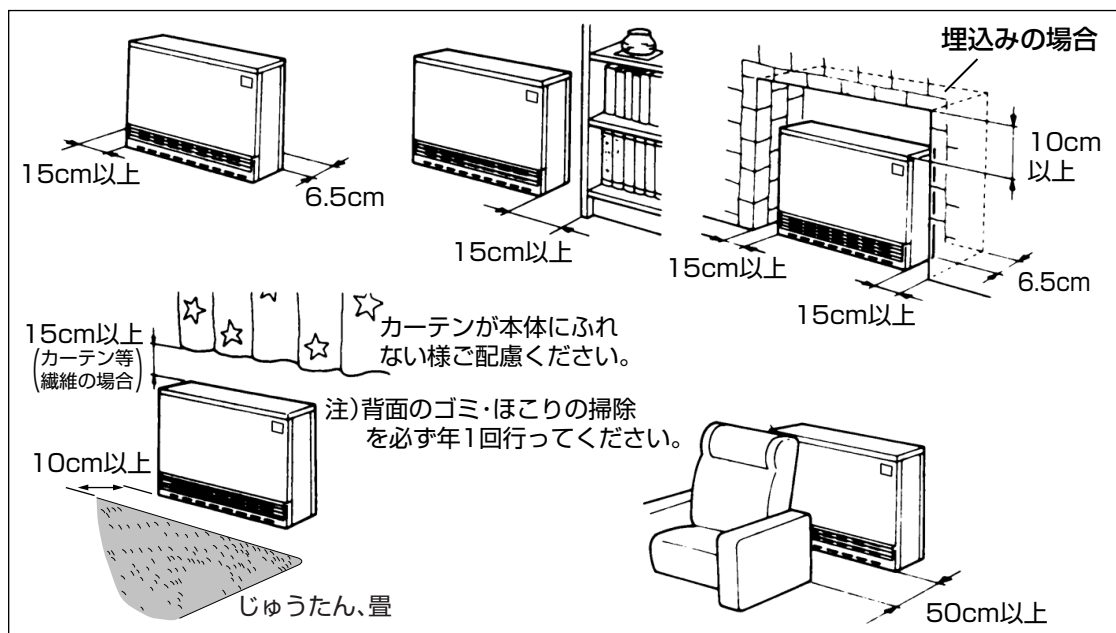
1 安全上の注意

1－1. 取扱について

⚠ 警告　安全のために次のことは必ずご使用の際お守りください。守らなかった場合、火災ややけどの恐れがあります。

1－2. 据付について

⚠ 警告　ご使用にあたり、下記の項目を満たしていない設置が行われていた場合は使用しないで、すみやかに設計者、設置者等にご相談ください。

（1）以下の離隔は必ず守ってください。

（2）水がかかったり、表面に結露を生じるような湿気の多い場所では使用しないでください。（故障、事故の原因になります。）室温30℃以上、湿度70%以上となる乾燥室などの熱源としては使用できません。

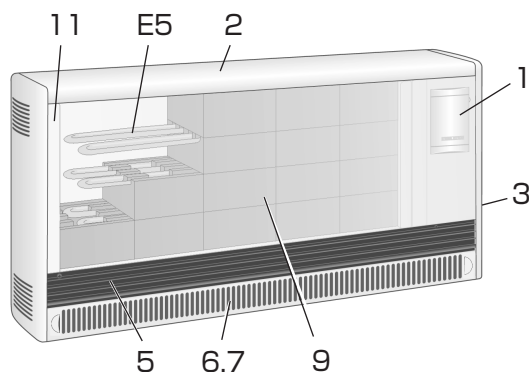
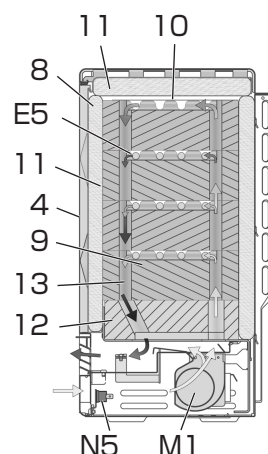
（3）壁面固定金具が正しく取付けられ、本体がしっかりと壁面に固定されていることを確かめてください。

（4）万一の感電防止のために、①アース工事、②漏電遮断器設置工事、が行われていることを確かめてください。

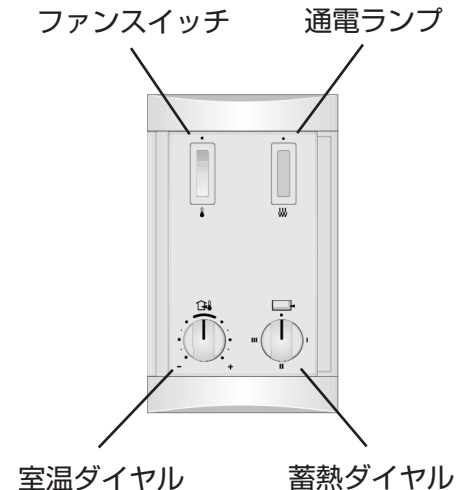
(5) 対流する上昇気流によるほこり等によって壁面が変色する場合があります。壁紙などは、熱で変色しないもの、防炎仕様のもの、清掃可能なものを使用してください。
(6) 本体は必ずしっかりと補強された、水平な床の上に設置してください。
(重量物ですので 2 階以上に設置する際は、建築業者にご相談くださくい。)
(7) 畳、じゅうたん、クッションフロアなどの上に設置するのは、絶対におやめください。
(8) 棚下などに設置した場合は、合板又は木材の含水量や空気の乾燥度によっては反る場合があります。暖房器を使用した場合、乾燥する場合がありますが、家具や壁紙等のひび割れなどの損傷については保証できません。またムクなど部材によっては変形する場合があります。
(9) 設置後はご自分で移動させないでください。

1−3. 使用上の注意

(1) 暖房期間中に万が一転倒した場合は、①電源ブレーカを切ってください、②落下物等がある場合は取り除いてください、③本体の周りから床等に水を流してください、④すみやかにお客さまセンターに連絡してください。
(2) 急激に熱を加えると壁紙が剥がれる場合がありますが、剥がれた壁紙については補償できません。急激に熱を加えないよう、初回使用時は蓄熱量を段階的に増やしてください。
(3) ファンモーターが故障し、動かなくなった場合はそのまま使用せずに速やかに交換してください。特に複数台のファンのうち1つが止まった状態で、そのまま使用されますと熱が滞留し床面等が変色する場合があります。
(4) 故障等による二次的被害(電気代等)の補償は致しません。
(5) 気密性の高い住宅ではファンの音が大きく聞こえることがあります。
(6) 機器の配置や間取り等の状況により実際には弊社で行った負荷計算の設計室温を前後する場合があります。
(7) 補強を行っていても震災、その他天変地変では転倒する可能性もあります。

2 各部のなまえ

1:操作パネル(詳細は、3.操作部のはたらきをお読みください。)
2:天板パネル
3:右面パネル
4:前面パネル
5:吹出しグリル
6:吸気グリル
7:フィルター
8:バッフル板
9:蓄熱体
10:対流板
11:マイクロサーム
12:サーモソリッド
13:ダブルエアダクト
E5:ヒーターエレメント
M1:クロスフローファン
N5:放熱異常バイメタル

3 操作部のはたらき

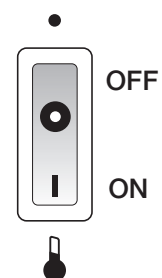
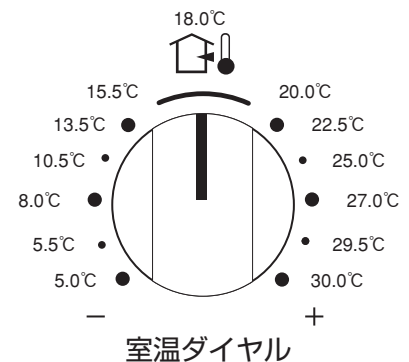
表示部パネル

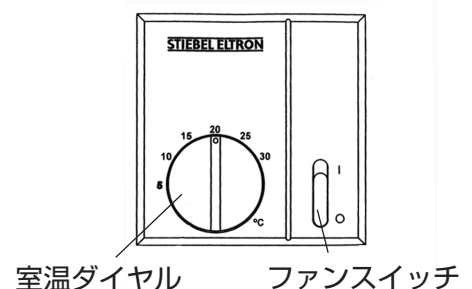
表示マーク		表示内容
	蓄熱量	設定蓄熱量を変更します。
	室　温	設定室温を変更します。
	ファン	ファンをON／OFFします。 ファンON時に点灯します。
	通　電	蓄熱時に点灯します。

4 運転のしかた

4－1. 室温設定のしかた

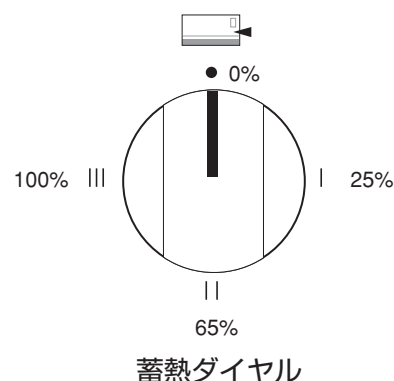
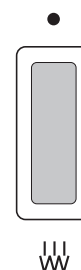
●ダイヤルでお好みの室温に設定をしてください。
※表示はあくまで目安です。
　任意の位置に設定できます。

●ファンスイッチをONにすると、スイッチ内のランプが点灯し、検出室温が設定室温を下回るとファンが動作します。
※設定室温に到達すると自動的にファンが停止し、検出室温が下がると再びファンが動作します。

●ファンスイッチをOFFにすると、ランプが消え、ファンが停止します。
※深夜、ご就寝の際には必ずファンスイッチをOFFにしてください。深夜中、ファンスイッチをONにし続けると翌日の蓄熱量が不足します。
深夜電力時間（通常23:00～7:00）にファンを動作させると、マイコン制御が解除されて強制的に蓄熱されます。
※ソフトファンコントロール機能とは放熱量自動調節のことです。

外付ルームサーモ（RTA－100）を使用している場合
室温ダイヤルで、お好みの室温に設定してください。
ファンスイッチを「I」にするとファンが動作します。

※RTA－100を使用している場合、操作してから約5秒のタイムラグが生じます。
※外付ルームサーモを使用する場合は、蓄熱暖房器本体側のファンスイッチを常にOFFにしてください。

4－2. 蓄熱量設定のしかた

蓄熱ダイヤル

●ダイヤルでお好みの蓄熱量に設定してください。
●翌日寒くなる時は高く、暖かくなる時は低く、前日に蓄熱量を設定してください。※
※表示はあくまで目安です。
　任意の位置に設定できます。

●通電(蓄熱)を開始すると蓄熱ランプが点灯します。
※マイコン制御により深夜電力終了時に設定蓄熱量に到達するよう通電開始時間を調整するようにプログラムされています。そのため、深夜電力時間開始直後には蓄熱ランプが点灯しないこともあります。
(残熱量により蓄熱開始時間が変わります。)

シーズンセンサーをご利用の方へ

●この機能は、外気温度を検知することで、蓄熱量を自動的に設定するものです。
●この機能をご利用の方は、**蓄熱ダイヤルを常に最大（100% Ⅲ）に設定してください。**

4－3. タイマーの取扱いについて（ETT－TJTの場合）

通常タイマーのスイッチを「自動」に合せてお使いください。
蓄熱暖房器で追い焚きをしたい場合は、タイマーのスイッチを「入」にしてください。
追い焚きを終了したい場合は、タイマーのスイッチを「切」にした後、「自動」に合せてお使いください。

詳細はタイマーの取扱説明書をご覧ください。

5 暖房器を使い始めるまえに

毎年、暖房器をお使い頂く前に以下のことをご確認ください。

●吸気グリルのフィルター清掃を行ってください。（７ページ　7-2（２）を参照）
●100V電源及び200V電源（蓄熱暖房器専用ブレーカ）を入れてください。
●ファンが回転することを確認してください。（３ページ　4-1を参照）

試運転後は蓄熱ダイヤル、室温ダイヤルともにお好みの設定にしてください。
※シーズンセンサー機能ご利用の方は、蓄熱ダイヤルを常にⅢに設定してください。

※初めてご使用頂く場合は、臭いが発生することがありますが、異常ではありません。
　換気を十分に行ってください。

6 こんな時は

少し寒いと感じた場合

ファンスイッチ ⇒ 「ON」にしてください。（P3　4−1 参照）

室温ダイヤル ⇒ 高めに設定してください。（P3　4−1 参照）

翌日寒くなると予想される場合

※シーズンセンサーご使用時は操作不要です。

蓄熱ダイヤル ⇒ 高めに設定してください。（P4　4−2 参照）

翌日暖かくなると予想される場合

※シーズンセンサーご使用時は操作不要です。

蓄熱ダイヤル ⇒ 低めに設定してください。（P4　4−2 参照）

お買い物などの外出時

ファンスイッチ ⇒ 「OFF」にしてください。（P3　4−1 参照）

蓄熱ダイヤル ⇒ 操作はいりません。

数日間の旅行などの外出時

ファンスイッチ ⇒ 「OFF」にしてください。（P3　4−1 参照）

蓄熱ダイヤル ⇒ 設定蓄熱量を「Ⅰ」にしてください。（P4　4−2 参照）

又はそのままの設定でお出かけください。

長期間の外出、不使用時（シーズンオフ）

ファンスイッチ ⇒ 「OFF」にしてください。（P3　4−1 参照）

蓄熱ダイヤル ⇒ 蓄熱暖房器用のブレーカを「切」にしてください。(P4　4−2 参照）

就　寝　時

ファンスイッチ ⇒ 「OFF」にしてください。（P3　4−1 参照）

それでも寒い場合のみ「ON」にして、設定室温を低くしてご利用ください。（P3　4−1 参照）

蓄熱ダイヤル ⇒ お好みの蓄熱量に設定してください。（P4　4−2 参照）

※シーズンセンサーご使用時は操作不要です。

移設、引越しなど

ファンスイッチ ⇒ 「OFF」にしてください。（P3　4−1 参照）

蓄熱ダイヤル ⇒ 蓄熱暖房器用のブレーカを「切」にしてください。（P4　4−2 参照）

※移設、引越しの際は、保証書に記載のある販売店にご相談ください。

7 日常の点検とお手入れ

7−1. 本　体

●通常は乾いた布でふいてください。
汚れがひどい場合は、適量にうすめた食器用中性洗剤を含ませた布でふき取ってください。

●水をかけないでください。
本体や操作部に水をかけて洗わないでください。（故障の原因となります。）

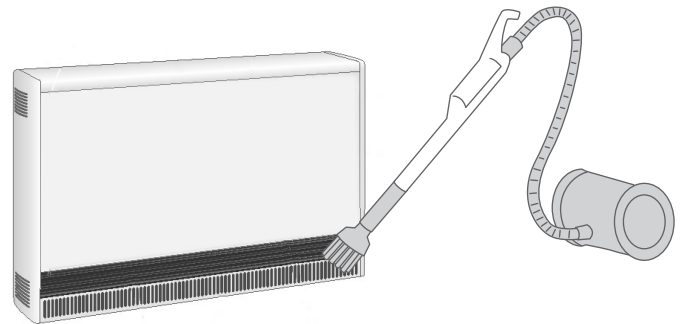
⚠注意　**ベンジン、シンナー及びクレンザー、ナイロンたわしなどの使用は、本体を傷めますので絶対にやめてください。**

7−2. 吸気グリル

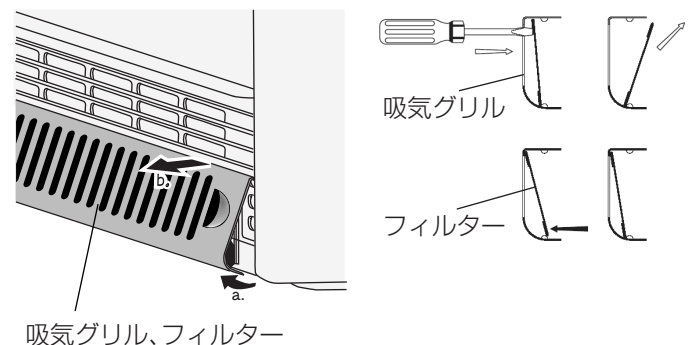
●吸気グリルにはフィルターが取付けられております。フィルターが詰まると故障の原因となりますので定期的に掃除をしてください。

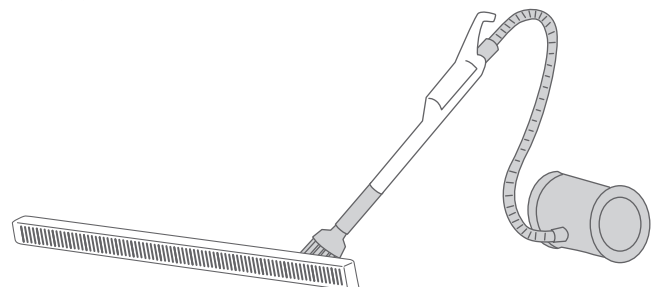
※あくまでも目安ですので、ほこりがたまりやすい場合はこまめに掃除してください。

⚠注意　**フィルターにほこりがたまると、空気が流れないためにファンの寿命が短くなります。また、十分に蓄熱しないといった問題が生じる可能性があります。**

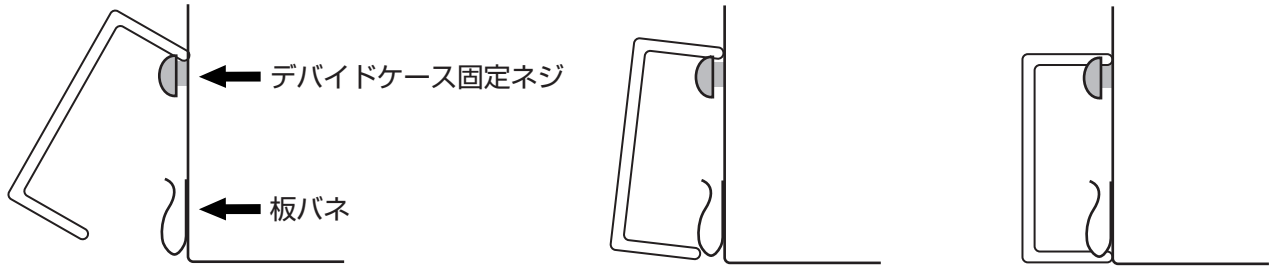
（1）1週間に1回のお掃除
吸気グリルの上から掃除機でほこりを吸い取ってください。

（2）暖房シーズン前後や、暖房シーズン中でほこりの堆積が多い場合の掃除
吸気グリルを外し、フィルターに付着しているほこりを取り除いてください。

（3）吸気グリルの外しかた
吸気グリル両サイドのみぞを持ち、吸気グリルの下部を手前に引いて外し、次に上に持ち上げて左右2ケ所のホック（ネジの頭）から外してください。

吸気グリル、フィルター

⚠注意　**フィルターを外す場合は、ケガをしないように気を付けてください。**

⚠注意　**暖房シーズン中にファンを動かしている時はグリルが熱くなっていますので、必ずファンをOFFにし、グリルの熱が下がってから掃除を行ってください。**

吸気グリルの取付けかた

吸気グリル両サイド上部のみぞをデバイスケースを固定しているネジの頭に合わせてから吸気グリル下部を押し込むようにして板バネに取付けます。

真横から見た図

8 故障かな？と思ったら

現　象	確認項目	処置方法
本体が 暖まらない。	200Ｖ電源ブレーカが「入」になっていますか。	200V電源ブレーカを「入」にしてください。
	蓄熱量が設定されていますか。	設定蓄熱量を「Ｉ」以上にし蓄熱してください。(P4　4-2参照) ※シーズンセンサーご利用の方は「Ⅲ」に設定してください。
本体は暖かいが 部屋は暖まらない。	ファンスイッチが「ON」になっていますか。	ファンスイッチを「ON」としてください。(P3　4-1参照)
	室温の設定が低くありませんか。	設定室温を高くしてください。(P3　4-1参照)
	蓄熱が不足していませんか。	設定蓄熱量を「Ⅲ」に設定してください。(P4　4-2参照) ※ 翌日まで暖まりません。
	暖房器の前を覆うように物を置いていませんか。	暖房器の前に置いてある物をずらしてください。 暖房器の前方、50cm以内に物を置かないでください。
	ドアや扉、窓等が開放となっていませんか。	ドアや扉、窓等を閉めてご使用ください。
温風が 出てこない。	ファンスイッチが「ON」になっていますか。	ファンスイッチを「ON」にしてください。(P3　4-1参照)
	室温の設定が低くありませんか。	設定室温を30℃にしてください。(P3　4-1参照)
	蓄熱が不足していませんか。	設定蓄熱量を「Ⅲ」に設定してください。(P4　4-2参照) ※ 翌日まで暖まりません。
	100Ｖ電源ブレーカが「入」になっていますか。	100V電源ブレーカを「入」にしてください。
	吸気グリル、吹出しグリルが詰まっていませんか。	吸気グリル、吹出しグリルを外し、フィルターを清掃してください。(P7　7-2参照)
	本体前面に、直射日光があたっていませんか。	室温センサー部に直射日光の影響を与えないようにしてください。
本体が熱すぎる。	本体に物が乗っていませんか。	危険ですので物を乗せないでください。
	吸気グリル、吹出しグリルが詰まっていませんか。	吸気グリル、吹出しグリルを外し、フィルターを清掃してください。(P7　7-2参照)
	蓄熱暖房器に直接風が当たっていませんか。	風が当たりますと蓄熱量が少ないと判断して蓄熱しすぎることがあります。

温風の量が左右で異なる。	吸気グリル、吹出しグリルが詰まっていませんか。	吸気グリル、吹出しグリルにほこりが溜まると異臭や変色の原因となることがあります。フィルター及びグリルを清掃してください。（P7 7-2参照）
	片方のファンが止まっていませんか。	片方のファンが停止した状態で使用を続けた場合、床面の変色等が発生するケースがあります。 片方のファンが停止している場合は速やかにお客さまセンターまでご連絡ください。
蓄熱するとブレーカが落ちる。	暖房器の正面からみて左面下部の銘板シールを確認してください。	銘板シールを確認後、設定蓄熱量を「●」とし、お客さまセンターに連絡してください。
ファンを回すとブレーカが落ちる。	暖房器の正面からみて左面下部の銘板シールを確認してください。	銘板シールを確認後、ファンスイッチを「OFF」とし、お客さまセンターに連絡してください。

上記の処置でも問題が解決しない場合がございましたら、お客さまセンターにご連絡ください。

次の場合は故障ではありません

現　　象	原　　因
蓄熱又は、放熱時に本体から音がする。	熱の影響による本体の熱膨張または収縮によるものです。 異常ではありません。
初期の運転時に臭いがする。	断熱材、蓄熱体やヒーターに付着した油などの焼けによるものです。数日後には治まります。
夕方（午後）になると吹出空気が暖かくない。	深夜ファンスイッチが「ON」となっていた場合や蓄熱量の設定が低すぎた場合に起こります。
本体からときどき「カチッ」と音がする。	機械内の部品が動作している音です。 異常ではありません。
通電開始時間（通常23:00）になっても蓄熱が開始されない。 （ランプが点灯しない。）	マイコン型は、朝（通常7:00）までに設定蓄熱量に達するように蓄熱開始時間を自動的に調整しておりますので、必ずしも通電開始時間直後（23:00）から蓄熱を開始するわけではありません。
ファンの風量が少なく感じる。	室温を最適にする為の自動制御が働いている場合に、風量が少なくなります。
ランプの光が揺らぐ。	性能には問題ありません。
本体が通常よりも熱い気がする。	外気温や設置状況により、表面温度に変化がでる場合があります。
温度ムラを感じる。（室温が均一ではない）	住宅の気密性・断熱性、部分暖房や換気装置の種類などにより温度ムラが生じることがあります。

9 点検および修理について

アフターサービス（点検・修理）を依頼される場合

●アフターサービスを依頼される前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、それでも不具合がある場合、あるいは不明な点がある場合はご自分で修理なさらないで、お客さまセンターにご連絡ください。

日本スティーベルお客さまセンター
フリーダイヤル 0120-146-497（固定電話のみ）
●携帯・ＰＨＳの場合 …… ☎022-727-5238

アフターサービスをお申し付けの時は、保証書をご覧のうえ、次のことをお知らせください。

① 型名（製造番号）
② 不具合の内容（蓄熱しない、ファンが動作しない等）
③ お取り付け年月日（保証書をご覧ください）

補修用性能部品の最低保有期間について

●この器具の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後10年です。なお、補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するための部品です。

保証について

●本製品は、お取り付け日から1ケ年保証です。
但し、別添のユーザー登録をしていただきますと、該当の蓄熱暖房器に対し保証期間を1年間延長し、設置日より2年の保証とさせて頂きます。
（尚、ご登録頂いていない機器の保証期間は自動的に1年間とさせて頂きます）
●保証書は、敗売店または施工店からお渡ししますので、必ず「販売店」又は「施工店」名、「お取り付け日」などの記入をお確かめになり、保証書の内容をよくお読みのうえ保管してください。
●修理を依頼される場合、お客さまセンターにご連絡ください。保証期間であれば、保証書の記載内容に基づき無料修理を行います。保証期間を過ぎても、修理により製品の機能が維持できる場合には、ご要望により有料修理いたします。

⚠注意　お客様が分解、解体した場合には保証を受けられませんのでご注意ください。

ユーザー登録と個人情報取扱いについて

●ご登録頂きます個人情報は日本スティーベル株式会社においてユーザー登録、蓄熱暖房器に関する製品情報のご案内・アフターサービスに関するお知らせ、及びアンケートをお届けする目的で利用させていただきます。情報の送付の可否につきましては、選択することができます。

10 仕様

機種		ETT−350TJT/TJ	ETT−500TJT/TJ
ヒーター定格	電圧	単相／三相 200V	
	周波数	50／60Hz	
	消費電力	3.5kW	5.0kW
ファン定格	電圧	単相 100V	
	周波数	50／60Hz	
	消費電力	18W(10W+8W)	26W(10W+8W×2)
	台数	2	3
	騒音	34dB	34dB
総消費電力		3.5kW	5.0kW
制御	電圧	単相 100V	
	周波数	50／60Hz	
	消費電力	2W	
最大蓄熱量		28.0kWh	40.0kWh
有効蓄熱量		24.5kWh	35.0kWh
外形寸法	幅	1130mm	1480mm
	高さ	495mm	
	奥行	245mm	
総質量		197kg	270kg
蓄熱体質量		142kg	199kg
蓄熱体	梱包数	10	14
	蓄熱体数	20	28
主要部品	ヒーター	高耐熱ステンレスシーズヒーター	
	蓄熱体	フェオライト	
	蓄熱センサー	白金測温抵抗体	
	室温センサー	サーミスターセンサー	
	過蓄熱防止器	主回路遮断バイメタル式過熱防止器（手動復帰）	
	電子基板	100V	
蓄熱異常バイメタル		バイメタル式	
放熱異常バイメタル		バイメタル式	
転倒回路遮断		本体転倒時回路遮断器（傾斜60°以上で全回路遮断）	
外気温度センサー		サーミスターセンサー	
オプション(別売品)	外付ルームサーモ	RTA-100 サーマルフィードバック付バイメタル式ルームサーモ	
	通信ケーブル	シーズンセンサーケーブル延長用　耐熱性１０５℃以上　耐寒性−２０℃　難燃性	
	吹出口ガード	アルミ製　乳幼児の指などの挿入を防止	
	レベルアジャスター	本体下部に挿入し床面より高い位置に固定	

●本機器はマイコン割引が適用になります。割引の有無及び割引率は電力会社により異なります。また、マイコン割引が適用される為には所轄の電力会社への申請が必要です。詳しくはお近くの電力会社各営業所までお問合せください。

STIEBEL ELTRON

蓄熱式電気暖房器
取付説明書
（取付説明書、保証書付）

型　名……●ETT-350TJT
●ETT-500TJT
●ETT-350TJ
●ETT-500TJ

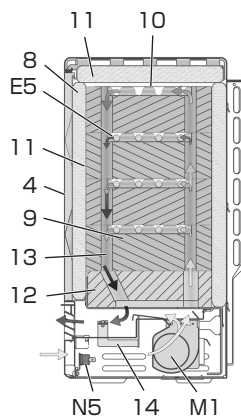
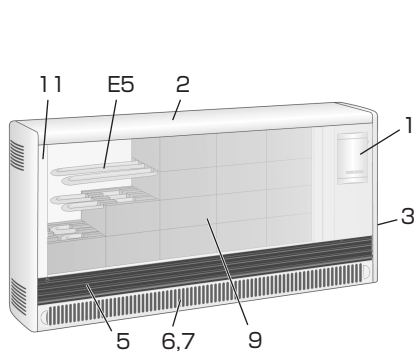
品　名……エルサーマット
ETT-Tシリーズ

取付工事店様へ

●この機器を正しく安全にお客様に使用していただくために、この取付説明書とともに取扱説明書をよくお読みのうえ、取付説明書の内容に沿って正しく取付けてください。
●施工上の責任は当社では負いかねますので、万一施工上に起因する不都合が生じた場合は、貴店の保証規定により修理していただくようお願いいたします。
●取扱説明書の保証書に貴店名及び取付日等の必要事項を必ず記入してください。
●工事終了後は取扱説明書（保証書付き）及び取付説明書を必ずお客様にお渡しください。手渡しできない場合は、蓄熱式電気暖房器の天板に置くなど必ずお客様に渡るようにしてください。

お客様へ

●取付説明書に記載されている事項は取付工事店に対するものです。インターフェイス接続等は必ず専門業者におまかせください。

1 各部のなまえ

1：操作パネル
（詳細はＰ3をお読みください。）
2：天板パネル
3：右面パネル
4：前面パネル
5：吹出しグリル
6：吸気グリル
7：フィルター
8：バッフル板
9：蓄熱体
10：対流板
11：マイクロサーム
12：サーモソリッド
13：ダブルエアダクト
14：デバイドケース
E5：ヒーターエレメント
M1：クロスフローファン
N5：放熱異常バイメタル

2 部品の確認

●次の部品があることを確かめてください。

（1）蓄熱暖房器
（2）取扱・取付説明書(保証書付き)
（3）壁固定金具セット
（4）蓄熱体
（5）シーズンセンサー
（6）整流板(棚下設置の場合のみ使用)

※以下はETT-TJTの場合のみ
・タイマー
・タイマー取付金具
※タイマー用ケーブル(2芯×2本)は、予め本体端子台に接続してあります。

型　式	蓄熱体 梱包数	壁固定金具セット		
		寸法	ネジ穴数	ネジとワッシャー
ETT−350TJT/TJ	10(20)	1055	9	9 本 (5×35)
ETT−500TJT/TJ	14(28)	1405	10	10本 (5×35)

( )内は蓄熱体数

※本体を梱包しているビニールは清掃の際に使用しますので捨てないでください。

●次の部品が暖房器に接続されていることを確認してください。

（1） 3芯の２００Ｖ電源用ケーブル（緑と黄のストライプがアースです。）

	導体断面積
ETT−350TJT/TJ	4.0mm^2
ETT−500TJT/TJ	4.0mm^2

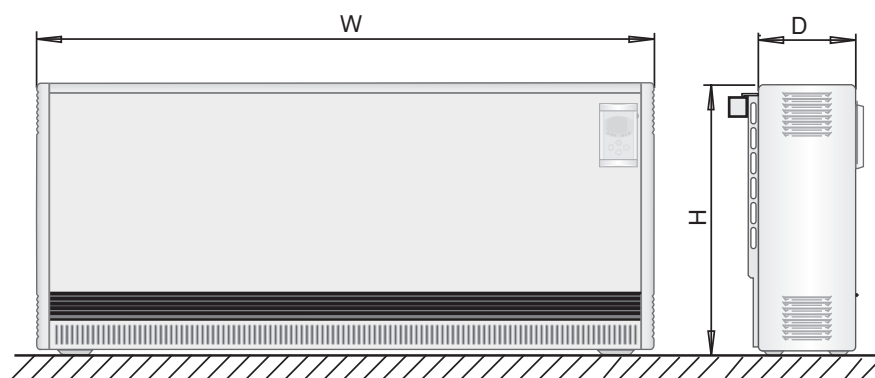
（2）2芯1.5mm^{2}の１００Ｖ電源用ケーブル

3 オプション部品

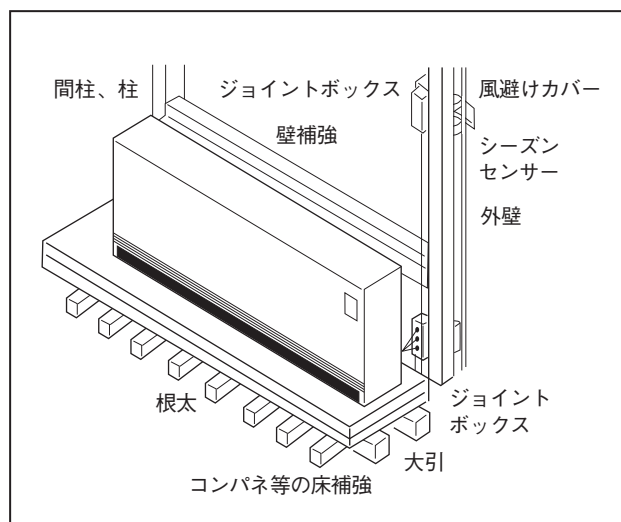
外付ルームサーモ	RTA-１００ サーマルフィードバック付バイメタル式ルームサーモ
通信ケーブル	シーズンセンサーケーブル延長用　耐熱性１０５℃以上　耐寒性－２０℃　難燃性
吹出口ガード	アルミ製　乳幼児の指などの挿入を防止
レベルアジャスター	本体下部に挿入し床面より高い位置に固定

4 標準仕様

型式		ETT-350TJT/TJ	ETT-500TJT/TJ
ヒーター電源		単相又は三相　200V　50/60Hz	
ファン電源		単相100V　50/60Hz	
制御電源		単相100V　50/60Hz	
ヒーター容量		3.5kW	5kW
総消費電力		3.50kW	5.00kW
ヒーター定格電流		17.5A(30A)	25A(40A)
ヒーターケーブル		3芯 4.0mm^2	3芯 4.0mm^2
ファン容量		18W(10W+8W)	26W(8W+10W+8W)
ファンケーブル		2芯　1.5mm^2	
製品寸法	幅　W	1130mm	1480mm
	高さ　H	495mm	
	奥行　D	245mm	
有効蓄熱量		24.5kWh	35.0kWh
最大蓄熱量		28.0kWh	40.0kWh
総質量		197kg	270kg
蓄熱体質量		142kg	199kg

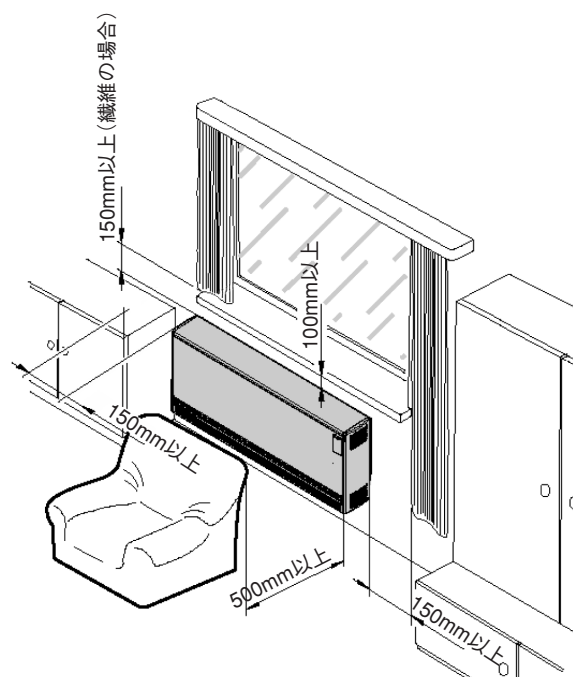
ヒーター定格電流値の下の（　）内は、漏電ブレーカの定格を示します。

5 取り付け前の注意

⚠ 警告　お客様に安全に使用していただくために、下記の点を守って設置してください。
（守らなかった場合は、火災や感電の恐れがあります。）

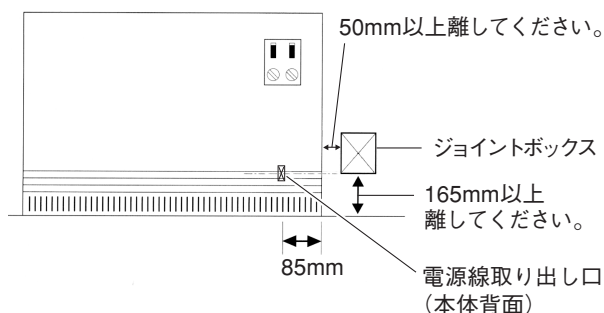
1. 電気製品ですので、水がかかったり表面に結露が生じるような湿気の多い場所への設置は避けてください。
2. 電源及び消費電力、定格電流を銘板で確認し、必ずこれに適した配線をしてください。
3. アースは第三種接地工事（D種接地）を行なってください。蓄熱暖房器一台に付き必ず漏電ブレーカを一台設置してください。
4. メンテナンススペースをとってください。
5. 配線は最小の長さにして、周囲にあそびをとらないでください。
6. 本体は必ず補強された壁に固定してください。設置場所の選定にあたっては背面固定のできる場所を選んでください。（右図参照のこと）
   壁補強材は柱又は間柱にしっかり固定してください。
   蓄熱暖房器の幅方向に根太が短いピッチで入るようにしてください。

⚠ 壁固定せず転倒した場合は、施工者責任となります。また下地が無い場所に固定した場合も同様です。

7. 本体は必ず本体質量に耐えることができる水平な床の上に、垂直に設置してください。壁面からの離隔が左右上下で同じでないと、音がするなどの原因となります。（床の傾斜の許容範囲は３／１０００です。水準器を用いて確認してください）畳、じゅうたん、クッションフロアなどの上に設置するのは、絶対におやめください。
   （重量物ですので２階以上に設置する際は、建築業者にご相談くださくい。）
8. 暖房負荷計算に基づいて選定した機種よりも容量の小さい機種を設置されますと、暖房器として十分に機能しないことがあります。（暖まりません）
9. 以下の安全離隔は必ず守ってください。

設　置	離隔距離	備　考
前面パネル	500mm以上	暖房できなくなります。
背　　面	65mm	本体温度が高くなるため
左面パネル	150mm以上	メンテナンススペース 確保のため
右面パネル	150mm以上	メンテナンススペース 確保のため
天板パネル	100mm以上	本体温度が高くなるため

※カーテン等、全ての繊維は、本体から150mm以上離してください。

10.対流する上昇気流によるほこり等によって壁面並びに床面が変色する場合があります。壁紙、床材などは熱で変色しないもの、防炎仕様のもの、清掃可能なものを使用してください。
また、急激に熱を加えると壁紙が剥がれる場合がありますが、剥がれた壁紙については保証できません。急激に熱を加えないよう、試運転時は蓄熱量を段階的に増やしてください。
11.仕上げ材及び下地材に使用する木質材料、固定用の接着剤などにはホルムアルデヒドを初めとするＶＯＣの放散が基準値以下になるものを使用してください。
12.壁補強
必ず、床上427mmの位置に壁補強をしてください。
13.床補強
床固定の位置に根太や大引を入れるようにしてください。
設置する機種の質量に合わせて根太や大引の間隔を決めてください。
14.棚下等に設置した場合は、棚板等の含水量や空気の乾燥度によっては反る場合があります。正しい離隔が保たれていても反る場合がありますが、その棚について保証できません。設置前にメーカーへご相談ください。

取り付け前に必ず準備してください。

●蓄熱暖房器の本体裏側以外の右側にプレート付きジョイントボックス（深型）を設けてください。

●ヒーター用電源200V単相／三相（アース付き）と制御電源100V単相の1次側配線を、あらかじめ準備してください。

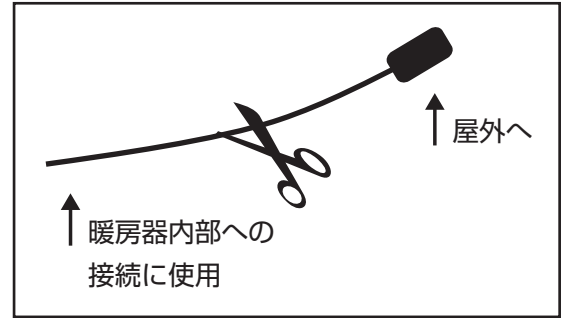
※ 総消費電力で200Ｖ配線（アース付）の電線太さは変わります。

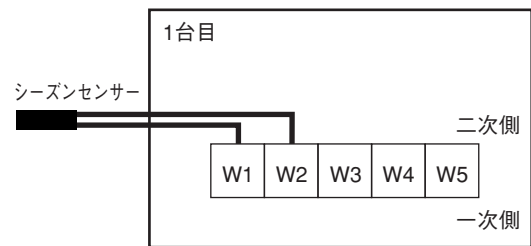
総消費電力	配線用遮断器の定格電流	分岐回路の最小電線太さ	
		VVケーブル	CVケーブル
3.5ｋW	30Ａ	5.5mm² （26m）	2mm² （9m）
5ｋW	40Ａ	8mm² （30m）	3.5mm² （13m）

（　)内の数値は電圧降下２％のときの電線こう長です。
この数値以上の長さが必要な場合は、１段階太い電線をご使用ください。

⚠ 注 意
電気工事は必ず工事の資格のある方が行なってください。
また、電気工事は内線規定他、現地管轄の電力会社の指示に従ってください。
接地工事（３種 ーD種ー 以上）は必ず行なってください。

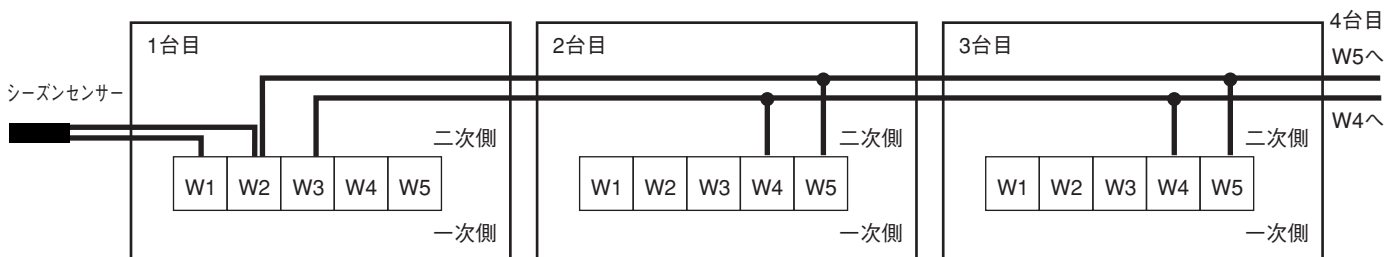
6 シーズンセンサーの設置のしかた

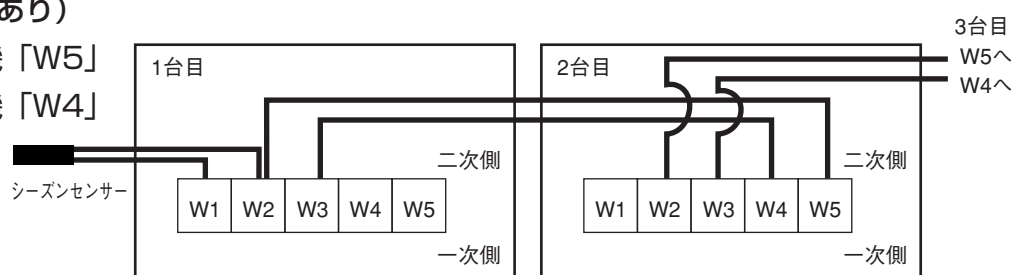
シーズンセンサーの接続は、本体右面パネル内の端子台「W1～W5」を使用します。
以下の結線図を参照し正しく接続してください。接続を誤ると正しく動作しません。
暖房器内部への接続は必ず耐熱ケーブルをご使用ください。（シーズンセンサーは、耐熱ケーブルです。シーズンセンサーを切断して、使用することも可能です。） ※右図参照

結線

（1）単独（1台）でシーズンセンサーを使用する場合
シーズンセンサーの配線を端子台「W1」「W2」へ接続（極性なし）

（2）複数台でシーズンセンサーを使用する場合

・**並列接続の場合**（10台以下の場合は、並列接続を推奨します。）
シーズンセンサーの信号を受ける親機を決めます。
親機（1台目）のブレーカーをOFFすると、シーズンセンサーの信号は子機へ伝わらなくなりますので、暖房シーズンの最後まで使用する機器を選択することをお勧めします。

親機（1台目）から子機への接続（極性あり）
親機「W2」→子機「W5」
親機「W3」→子機「W4」
（接続を誤ると、子機は手動操作になってしまいます。）

子機間の接続
子機「W4」→子機「W4」
子機「W5」→子機「W5」

・**直列接続の場合**（11台以上の場合は、直列接続を交え並列接続を行います。）
直列接続の場合、通信時間が1台に付き1分程度遅れます。
直列接続の場合、制御電源をOFFにした機器以降の暖房器は外気温の信号が伝達できないため、手動操作となります。

子機間の接続（極性あり）
子機「W2」→子機「W5」
子機「W3」→子機「W4」

⚠ **注 意**

お客様に快適にご使用いただくために、下記の項目を守って設置してください。
（守らなかった場合には、蓄熱しない等の問題が発生する可能性があります。）

1）シーズンセンサーの先端が風雨に直接さらされないようにしてください。
2）シーズンセンサーの先端を地面や床の近くに設置しないでください。輻射の影響により正確な温度が検知できない可能性があります。
3）ケーブルの配線はあそびがないようにしてください。またシーズンセンサーの先端部分は、正しく温度検出するために容易に動かぬようしっかり固定してください。
4）蓄熱暖房器の端子台に接続するケーブルは、２芯０.５SQ以上、耐熱１０５℃以上の自己消火性のあるケーブルを使用してください。
5）本体からジョイントボックス間以外のシーズンセンサー回路の配線は他の電源ケーブルと併走（150mm程度離してください。）させないようにしてください。（ノイズを拾い正常に機能しない可能性があります。ノイズを拾う可能性を減らしたい場合はシールド線を使用してください。）

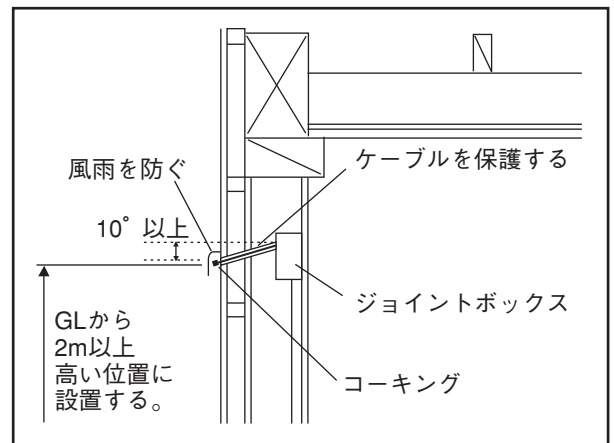
⚠ **注 意**

下記の場合のいずれかに当てはまる場合は、床下にシーズンセンサーを設置しないでください。

1）基礎断熱している住宅では、床下にシーズンセンサーを設置しないでください。基礎内が暖かいため蓄熱しなくなる可能性があります。
2）床暖房をしている直下にシーズンセンサーを設置しないでください。床暖房の影響を受けて蓄熱しなくなる可能性があります。
3）蓄熱暖房器を床下に設置する場合は、床下にシーズンセンサーを設置しないでください。

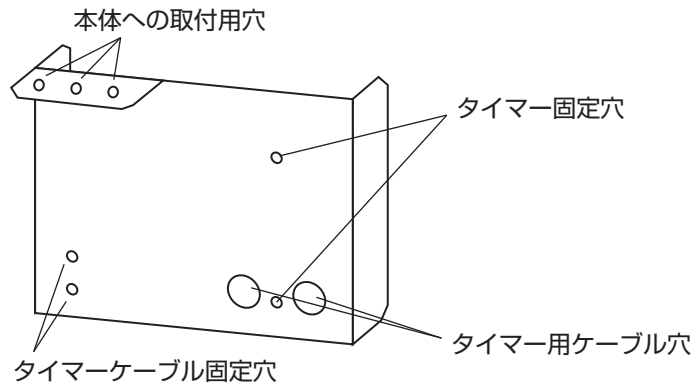
⚠ **注 意**

下記の内容に注意してシーズンセンサーを設置してください。

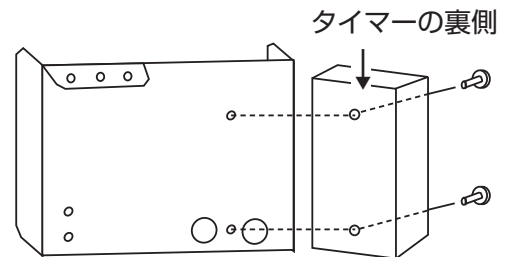
1）外壁や軒下に設置する場合は、住宅の排気が当たらない場所に設置してください。
2）シーズンセンサーは外壁に向け10°以上の傾斜を設けてください。
3）シーズンセンサーを通した穴は、コーキングし、雨水の侵入を防いでください。
4）シーズンセンサーを外壁に通す穴には絶縁チューブを入れるなど、ケーブルの保護対策を施してください。

7 ETT－TJTタイマーキットの接続方法

7－1 タイマーの取り付け

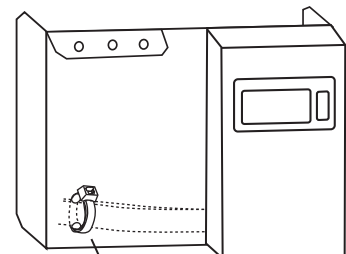
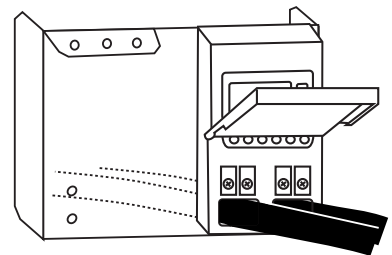
部品の確認

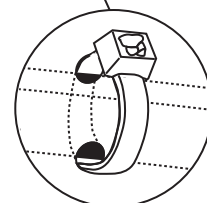
- ・タイマー ………………… 1個
- ・タイマー取付金具 ……… 1個
- ・インシュロックタイ …… 1本
- ・タイマー固定用ネジ …… 2本
- ・金具固定用平座付ネジ … 2本
- ・タイマー用ケーブル …… 2芯×2本
- ・タイマー取付説明書

※タイマーセットの取り付けは、壁面へ暖房器本体を固定した後、行ってください。

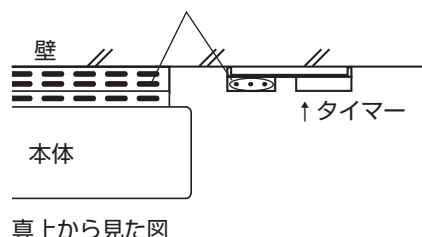
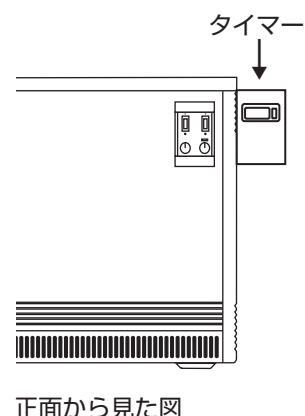
(1)タイマーを固定する

タイマー固定穴を使いタイマーを取付金具にネジで固定する。

(2)タイマー用ケーブルの接続

① タイマー用ケーブルを取付金具の専用穴にタイマー後部から通して、タイマー端子台に接続してください。
100V用と200V用ケーブルはインシュロックタイで固定しています。インシュロックは取り外さないでください。
ケーブルには「100V」（タイマー電源用）・「200V」（タイマー接点用）のマーキングが施してあります。

② 100Vと200Vの配線を誤らないように注意してください。
100V用ケーブル(Y端子)は、タイマー端子台「S1」「S2」に接続してください。
200V用ケーブル(丸端子)は、タイマー端子台「L2」「L1」に接続してください。

(3)タイマー用ケーブルの固定

タイマー用ケーブルをインシュロックタイを使い固定します。
（ケーブルの固定は、タイマー取付金具を本体に取り付けた状態の時にあそびがでないように調節してください。）

(4)タイマー取付金具を本体に取付ける

暖房器背部のスリットを使い、タイマー取付金具を本体に取付けます。（３つの穴のうち2つの穴を使いネジ固定）

タイマーの左側が正面から見て本体の右側と重なる部分で固定します。

7−2　タイマーの接続について

タイマー用ケーブル（2芯×2本）1.5mは本体同梱です。

●ケーブルには、「100V用」（タイマー電源）と 「200V用」（接点）のマーキングを施しています。

⚠注意　100V用ケーブルと200V用ケーブルを誤って接続しないでください。

⚠注意　各ケーブルをインシュロックタイで固定していますので分離させずお使いください。

付属端子について

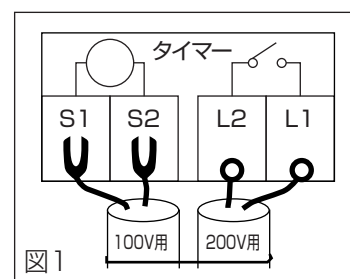
●タイマー側100Vケーブルには、 Y端子を取り付けています。

●タイマー側200Vケーブルには、丸端子を取り付けています。

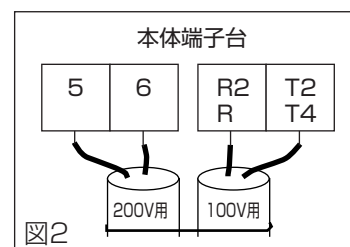
●本体側ケーブルには、棒端子を取り付けています。

タイマー側接続について（図1参照）

2芯ケーブル（100V用）→　タイマー端子台「S1」「S2」（極性なし）

2芯ケーブル（200V用）→　タイマー端子台「L2」「L1」（極性なし）

本体側接続について（図2参照）

100V用ケーブル　→　本体端子台「R2/R」「T2/T4」（極性なし）

200V用ケーブル　→　本体端子台「5」「6」（極性なし）

⚠注意　タイマーを使用する場合は、本体端子台「5」−「6」間の渡り線を必ず外してください。
外さないと常時ヒーター通電してしまいます。

7−3　タイマーの時刻及びプログラム設定について

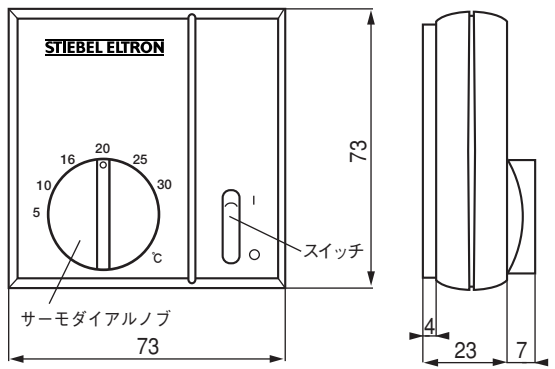
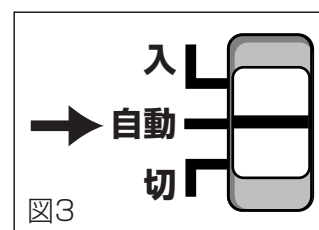
タイマーに同梱されている取扱説明書に従い、現在時刻及び深夜電力の入切時刻の設定を行ってください。
（深夜電力の時刻設定は、それぞれ5分安全サイドに設定してください。）

例）深夜時間（23：00〜7：00）の場合

入………23：05　　切………6：55

7−4　タイマーのスイッチについて

試運転は、タイマーのスイッチを「入」にして行ってください。
試運転終了後は、スイッチを必ず「切」から「自動」にあわせてください。（図3参照）

「入」は、タイマープログラムを無視し、連続入り→日中も通電してしまう

「切」は、タイマープログラムを無視し、連続切り→通電しない

8 外付ルームサーモ(オプション)の取扱いについて

RTA－100

RTA－100　1. 各部の名前／仕様

型　　式	RTA－100
電 源(V)	100V
対象機種	ETT－TJT/TJ
定格電流抵抗負荷 (　)内は誘導電流	10(4)A
寸法（H×W×D）	73×73×23
設定範囲	5℃～30℃
重　　量	70g

RTA－100　2. 取付前の注意

ご使用前の準備

⚠注意　外付ルームサーモの定格電流抵抗負荷容量を確認してください。

負荷が定格電流抵抗負荷容量を超えると、外付ルームサーモが発熱し火災の原因となります。
負荷の容量が定格電流値抵抗負荷容量を超える場合には、電磁接触器や電磁開閉器を併用してください。
製品本体に表示してある定格電流負荷容量は、抵抗負荷（ヒーター負荷）の場合です。
電動機などの突入電流が定常電流を上回る負荷を接続した場合は、スイッチ容量が極端に低くなります。

取り付け

⚠注意　次のような場所での使用はさけてください。誤動作・寿命低下・事故につながる恐れがあります。

●湿気・ホコリ・腐食性ガスの多い場所
●蓄熱暖房器の1.5m以内
●ドア・窓の1m以内
●その他外気・外界の影響の受けやすい場所
●結露の恐れがある場所
●振動・衝撃の多い場所
●外来ノイズの多い電気回路
●直射日光の当たる場所
●油や油煙がかかる場所
●カーテン等でルームサーモスタットが塞がれてしまう場所
●壁の中

⚠注意　床面には置かないでください。人が踏むと壊れます。火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意　電源側には、「電気設備技術基準」「労働安全衛生規則」などの関係法規に従って、保護装置（漏電遮断器・配線用遮断器など）を設置してください。

⚠注意　外付ルームサーモで直接制御できる負荷の容量は、負荷の種類によって異なります。

接　続

⚠注意　接続は、電気工事・電気配線などの専門技術の有資格者の元で行ってください。

⚠注意　接続図を十分確認のうえ正しく接続してください。誤接続は火災・感電の原因となります。

⚠注意　接続は電源を切ってからにし、活線での接続作業はしないでください。活線での作業は、火災・感電・機器の故障の原因となります。

⚠注意　接続する電線は、定格電流に適合したサイズを使用ください。不適切な電線の使用は、締付け不足・端子部分の破壊につながり、火災・感電の原因となります。

⚠注意　圧着端子は電線サイズに適合したものを使用してください。不適切な圧着端子の使用は、火災・感電の原因となります。

⚠注意　端子ねじは確実に締め付けてください。締付けの不足は、火災・感電の原因となります。過度の締付けは端子の破壊につながり、火災・感電の原因となります。

使用方法

⚠注意　通電中に端子及びその周辺には絶対に触らないでください。感電の原因になります。

⚠注意　製品の隙間から異物を入れないでください。火災・感電の原因となります。

異常時の処置

⚠注意　発煙・異臭など異常状態のまま使わないでください。火災・感電の原因となります。
異常が発生したら、電源（ブレーカ）を切って販売店又は弊社へ連絡してください。

⚠注意　お客様自身で修理・改造はしないでください。不備があると火災・感電の原因となります。

保守点検

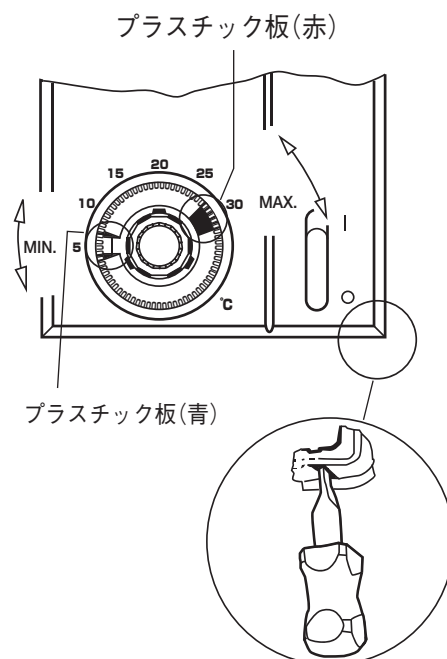
⚠注意　保守・点検は、電源を切った状態で行ってください。

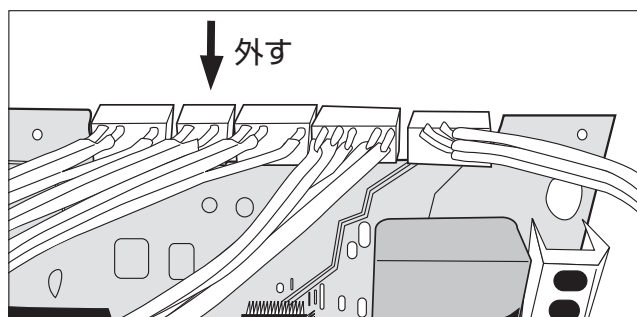
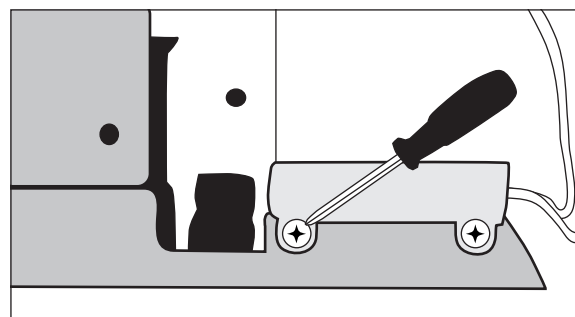
⚠注意　保守・点検は、電気工事・電気配線などの専門業者の有資格者の元で行ってください。

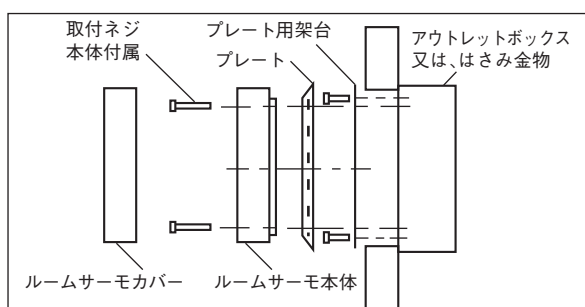
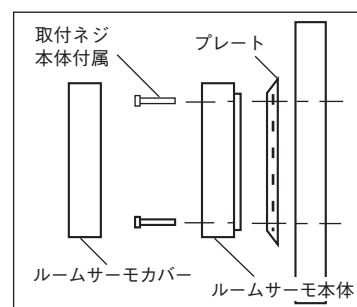
RTA－100　3. 施工方法

1　ルームサーモダイヤルを引き抜きます。
2　底部 2 箇所のツメをマイナスドライバー等で押しサーモダイヤルカバーを外します。（右図参照）
3　取扱説明書の結線図通りに、電気配線を行なってください。

暖房器端子台	外付ルームサーモ端子台
R2／R	6
T2／T4	4
S	2

熱を持つ恐れがありますので、結線後は必ず全ての端子台を増し締めしてください。締付けトルク0.69～0.98N･m（7～10kgf･cm）

RTA－100　4. 内蔵室温センサーの取り外し

蓄熱暖房器本体右正面下部の内蔵室温センサーのコネクタを基板から抜き本体から取り外してください。
（内蔵室温センサーを接続した状態では、正常に動作しません。）

室温センサーのコネクタを取り外します。

2ケ所のネジを取り室温センサーを外します。

RTA－100　5. 壁取り付け方法

アウトレットボックス（又ははさみ金物）に取り付ける場合
①プレート用架台とアウトレットボックスをネジ固定（ネジは客先手配）
②プレートと本体を付属ネジで、プレート用架台に固定。

壁に直接取り付ける場合
①プレートと本体を付属ネジで、直接壁固定。

重要！

本体のファンスイッチを常にOFFの状態にしてください。（設定を誤ると動作しません。）

お客様に引渡しをする前に、必ず試運転を行ってください。

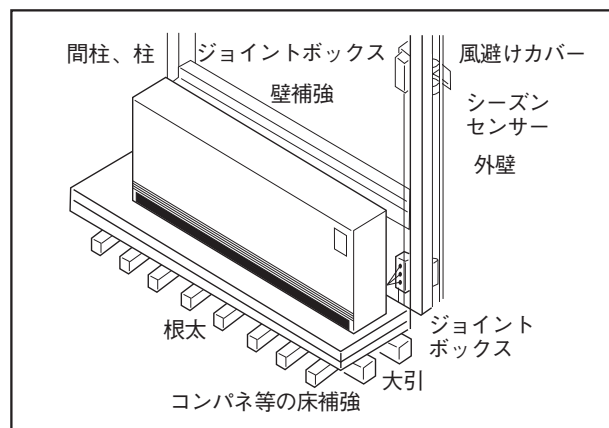
●外付ルームサーモスタットは5℃～30℃までの間で、無段階操作できます。
●外付ルームサーモスタットのスイッチは、「1＝入」「0＝切」です。
●お好みの温度を設定し、寒いときにはファンスイッチをＯＮしてください。
（スイッチＯＮの状態でも、設定室温に到達したらファンは自動的に停止し、温度が下がれば再び設定室温に到達するまでファンが回転します。）
●外付ルームサーモスタットをご利用の場合は、ソフトファンコントロール機能は使用できません。
●外付ルームサーモスタットをご利用の場合は、表示部パネルの設定温度は無効となり、外付サーモスタットの設定が有効となります。

外付ルームサーモスタットの上手な使い方

●就寝時、外出時以外はお好みの温度に設定しファンスイッチを「1＝入」にすることをお勧めします。
●外出時・就寝時は、ファンスイッチを「0＝切」にしてください。
●お部屋の温度が高い場合はダイヤル設定を低めにしてください。

9 本体固定の手順

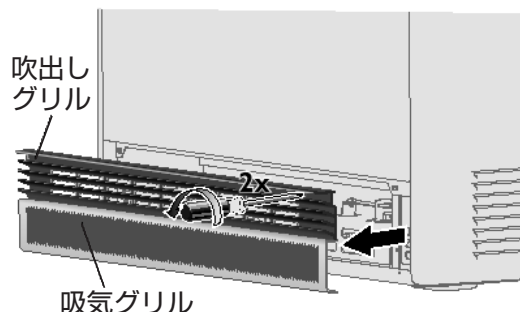
本体を固定する前に

本体操作部側の背面に電源ケーブルがインシュロックで固定されていますので、外してください。

蓄熱暖房器設置例図

9－1　吹出しグリルと吸気グリルを外す

●吹出しグリル固定ネジ（ 2 ケ所）を90度左回転させゆるめ、吹出グリルを抑えながら外します。（固定ネジは吹出グリルと一体化していますので、外れません。）

●吸気グリル両サイドのみぞを持ち、吸気グリルの下部を手前に引いて外し、次に上に持ち上げて左右2ケ所のホック(ネジの頭)から外してください。硬くて容易に外せない場合は片方ずつ取り外してください。

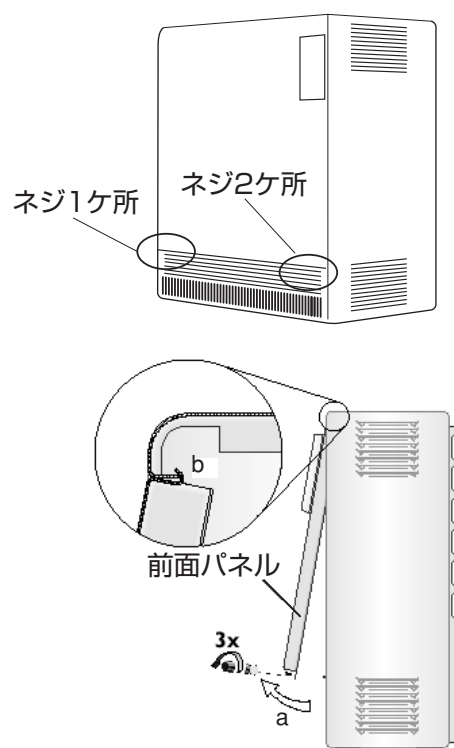
※吹出しグリル、吹気グリルとも単独で外れます。

9－2　前面パネルを外す

※前面パネルは吹出しグリル、吸気グリルを外さないと外せません。

●前面パネルを固定している 3 ヵ所のネジを外します。

●正面から見て左端にネジ１本（M4×12ネジ）、右側にネジ 2 本。（M4×12ネジと歯付座金）

●「a」の矢印の方向に前面パネル下部を引きます。

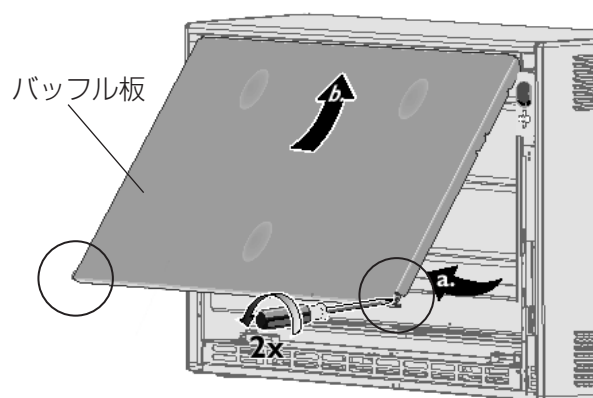
●前面パネルを上に少し押し上げて、天板パネルの「b」の引っ掛かりを外します。

9－3 バッフル板を外す

●バッフル板下部両端の丸で囲んだ位置のネジ（M4×12 ネジ）を外します。バッフル板に固定されている金具は外さないでください。

※500ＴＪ／TJTには中央下部に固定ネジが２本ついています。

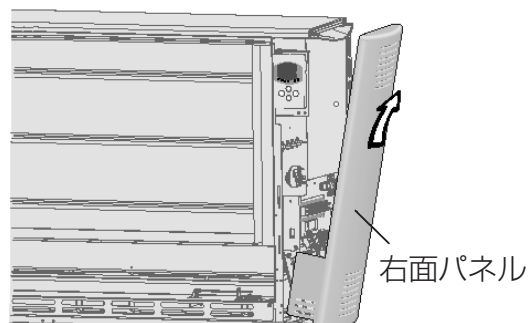
●矢印の「ａ」の方向にバッフル板を引き上げます。

●矢印「ｂ」の方向にバッフル板を押し上げて外します。

●本体内部にある対流板や段ボール紙、壁固定用ネジ等を取り出します。

9－4　右面パネルを外す

●右面パネルの上部を天板パネルから外します。

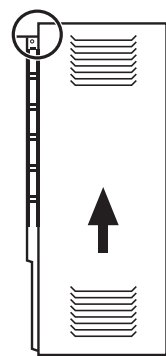
●右面パネルを矢印の方向に引いて、下面の突起２ヶ所からも外します。

※前面パネルを外していない場合
　前面パネル操作部側の右端のネジ１本（M4×12 ネジと歯付座金）を外し、上記と同じ作業をします。

9－5　左面パネルを外す

●左面の背面側にある丸の部分のネジ１本（M4×12 ネジと歯付座金）を外します。

●右面パネル同様に、左面パネルの上部を天板の引っ掛かりから外します。

●左面パネルを上の方向に引いて下面の突起２ヶ所からも外します。

※前面パネルを外さなくても外すことが出来ます。

9－6　電源を接続する

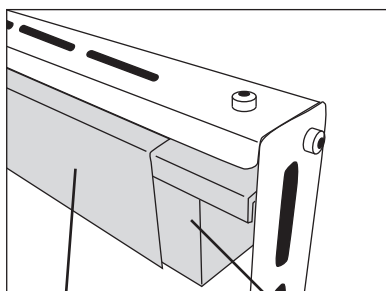
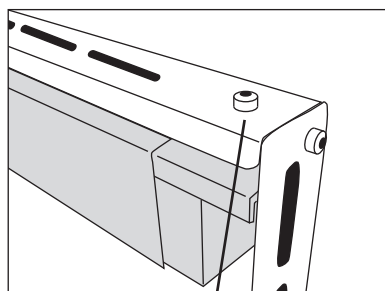
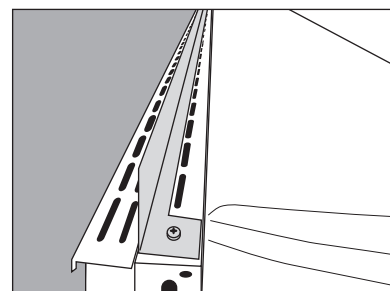
●本体を壁面に固定する前に、暖房器に予め接続されている電源ケーブルと屋内配線の圧着処理を行い接続します。接続部は必ず、ジョイントボックス内におさめてください。

※蓄熱暖房器のアース線は黄色と緑のストライプです。確実に屋内配線のアース線と接続してください。

⚠注意　電気工事は必ず工事の資格のある方が行なってください。また、電気工事は内線規定他、現地管轄の電力会社の指示にしたがってください。接地工事（３種 ーD種ー 以上）は必ず行なってください。

9−7　整流板の取り付について

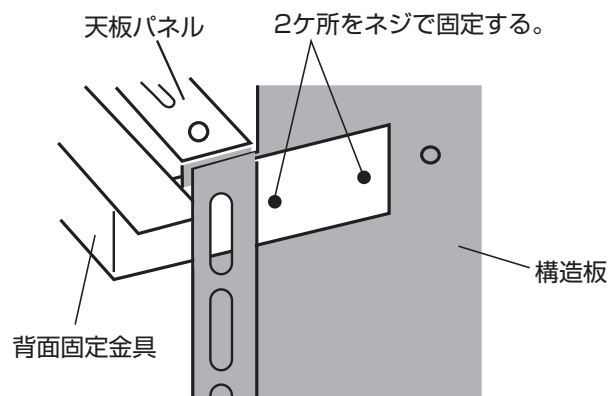
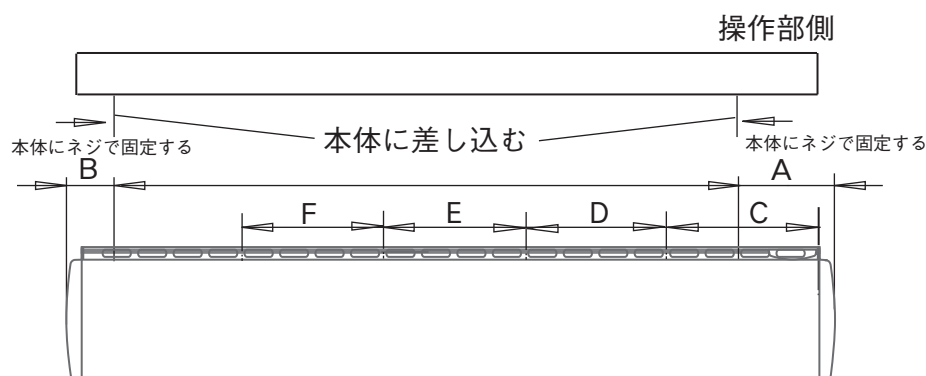
棚下設置の場合は必ず整流板を取り付けてください。
整流板は棚下設置等本体周囲を囲んだ設置状況において、暖房器本体背後に滞留する自然放熱の熱気を上方から前方へ整流する効果が生じます。従いまして棚下設置の際は、必ず整流板を取り付けてください。

梱包状態
背面固定金具にテープ止めしてあります。

取付方法
天板左右（5kW以上は中央も）のネジを一旦取り外し、整流板を共締めします。

9−8 本体を固定する

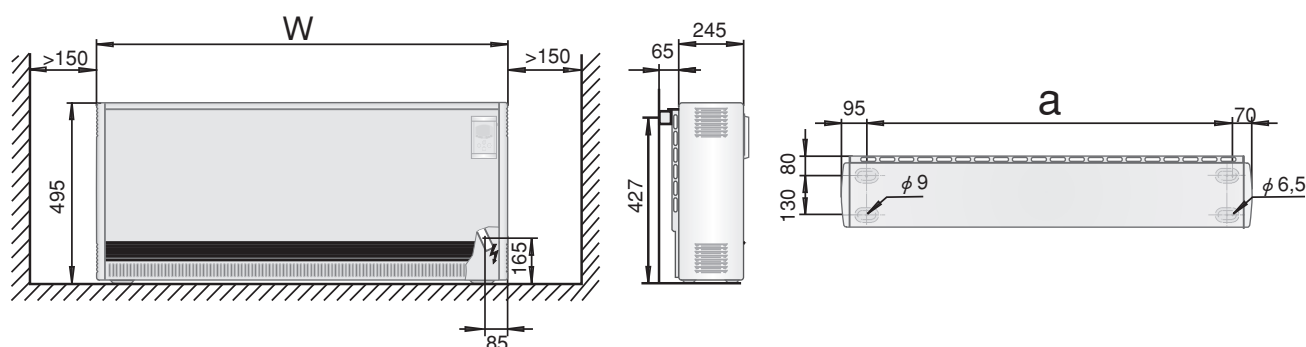
●背面固定金具の 2 本の突起部分を背面パネルの所定の穴に差込みます。
●両側面の構造板にネジで仮止めします。
●固定位置を決定後に、壁固定金具の固定位置を壁にマークします。
●一度壁固定金具を蓄熱暖房器から外します。
●壁固定金具を固定位置に合わせて壁に固定します。

⚠ **注 意**
壁固定金具は、指定本数のネジすべてを使用して壁に固定してください。

※（プラスターボード等の厚みにより）同梱のネジでは長さが不足する場合は、直径6mmの適切な長さのネジをご用意ください。

●壁固定金具の突起に蓄熱暖房器を差し込み、両側面をそれぞれ 2 本のネジで固定します。
●蓄熱暖房器は、壁から65mmの離隔で固定します。

壁固定位置

型　式	A	B	C	D	E	F
ETT−350TJT/TJ	137.5	69.0	278.5	192.0	192.0	−
ETT−500TJT/TJ			311.0	223.0	223.0	223.0

9−9 床に固定する

●右方の床固定穴(前後 2 ヶ所)は電子基板の右面パネル側に位置します。ネジとワッシャーで蓄熱暖房器を固定します。

●左方の床固定穴(前後2ケ所)は左側ファンの下部に位置します。一旦ファンを外してからネジとワッシャーで蓄熱暖房器を固定します。

※予め、固定位置に下穴を開けると作業が容易になります。

⚠注 意

床固定をした場合でも、必ず壁固定を行ってください。

蓄熱暖房器を床固定する場合は、必ず両側の前後 4 ヶ所を固定してください。

右面パネル側の固定の作業がしにくい場合は、一旦基板架台を本体から外して、固定してください。

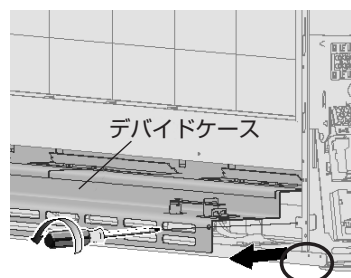
(架台を固定している壁面側のネジを緩めて、前面パネル側のフックを外してください。)

床固定位置

型　式	W（mm）	a（mm）
ETT−350TJT/TJ	1130	940
ETT−500TJT/TJ	1480	1290

10 蓄熱体の組み込みかた

10−1　デバイドケースを外す

●デバイドケース両端のネジ２本（M4×12ネジ）を外します。
●デバイドケースを矢印の方向に引き蓄熱暖房器から外します。
※ダンパーが引っ掛からないように注意してください。

10−2　ファンモーターの養生

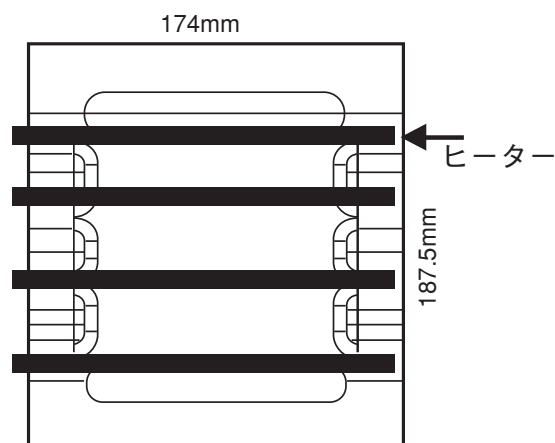
蓄熱体を組み込む際、かけらやくずが落下します。ファンモーター内部にかけらなどが入らぬように保護します。

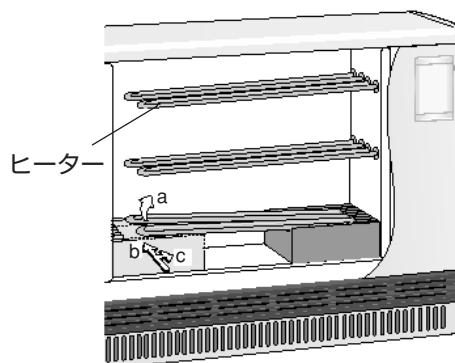
●本体を梱包していたビニールをファンモーターのフィン部分を覆うように養生してください。
ビニールが本体内部にひっかかり、破けて残留しないように丁寧に養生してください。

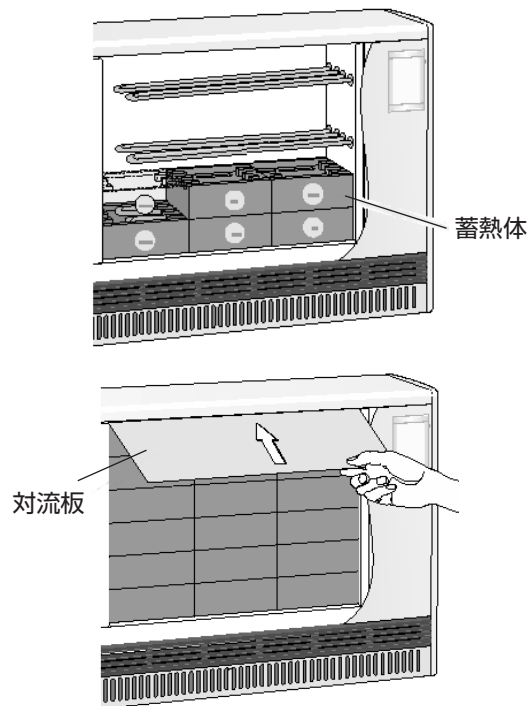
10−3　蓄熱体

●蓄熱体はすべて凹凸面が上向きになるように組み込んでください。
●蓄熱体は前後左右対称です。
●ヒーターと溝が平行になるように組み込んでください。

⚠ 注 意

・蓄熱体の組み込みを誤ると短期間で故障する場合があります。
・蓄熱体の端や溝にバリがある場合は削った上で組み込んでください。ヒーターに外力がかかるような蓄熱体の組み込みかたをしますと、ヒーターの断線などの問題が発生する可能性があります。

10−4　蓄熱体を組み込む

●ヒーターを矢印「a」の方向に少し持ち上げます。
●蓄熱体を矢印「b」の方向から入れます。
●蓄熱体を矢印「c」の方向に移動させます。
●定位置まで移動した後、蓄熱体を背面と右面側にしっかりと押し付けてください。
※断熱材のカバーを破らないようにしてください。
※ヒーターを持ち上げすぎると断熱材の穴が広がり、振動や断線の原因となる可能性があります。ヒーターは、蓄熱体が組み込める最小限の幅で持ち上げてください。

●下段の蓄熱体の組み込み終了後、ヒーターが蓄熱体の溝上にあるかを確認後、二段目を組み込んでください。
また、蓄熱体の高さに段差ができていないかを確認してください。
●三段目、五段目の組み込み終了時点でも同様の確認を行なってください。
●最上段（6段目）の蓄熱体は、天板の断熱材を傷つけないように組み込んでください。

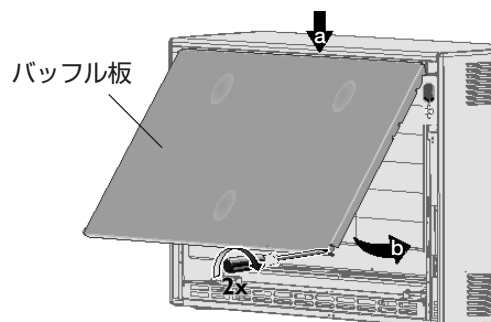
●最上段の蓄熱体を組み込んだ後、矢印のように対流板を蓄熱体の上に乗せてください。
蓄熱体中心部の2つの穴を覆うように乗せてください。
※蓄熱体は1段目から順番に組み込んでください。
※蓄熱体は右端から順番に組み込んでください。

留意事項

下段の蓄熱体の組み込み終了後、床の水平を水準器で確認してください。壁面との離隔距離が上下左右で変わっていないか確認してください。すべての蓄熱体組み込み終了後に、必ず再度同様の確認を行ってください。

こんな時は？

現　　象	対 処 方 法
蓄熱体がうまく組み込めない場合。 （入りきらない）	蓄熱体の端又は、溝のバリを削ると組み込みやすくなります。
	本体がゆがんで取り付けられている場合は、一旦、蓄熱体を取り外しゆがみを解消してください。（本体と壁面間の上下左右、すべての離隔距離が同一であることを確かめる。）
	左から2番目の蓄熱体を組み込む前に左端の蓄熱体を組み込み、その後左から2番目の蓄熱体を組み込んでみてください。
	対流板を左側面の断熱材に沿えて、左端の蓄熱体を組み込んでみてください。組み込み後は、必ず対流板を抜いてください。
蓄熱体が少し欠けている。	蓄熱体は端が欠けていても性能上は問題ありません。ただし、割れている場合はすみやかに正常な蓄熱体と交換してください。

10－5　バッフル板を取り付ける

●矢印「a」の方向に押し天板構造体の引っかかりにバッフル板を引掛けます。
●矢印「b」の方向にバッフル板を固定します。
●バッフル板下部両端のネジを締めて固定します。ただし、500TJ／TJTは、バッフル板下部中央2ヶ所もネジ止め固定します。

10−6　ファン周辺を掃除する

ファンモーター内部に蓄熱体のかけらなどが入らぬよう養生したビニールを引抜きます。
掃除機を使用してファン周囲を掃除してください。
※ファンモーターの下部に、プラスチックの振動防止が付いていることを確認してください。

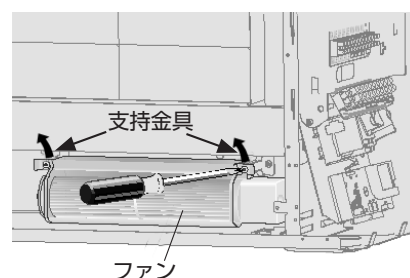
10−7　デバイドケースを固定する

●デバイドケースの上部を蓄熱暖房器内部の突起に置きます。
●デバイドケース前部をデバイドケース固定用ネジ穴に置きネジ穴を合わせます。
●デバイドケースの両端をネジ（M4×12　ネジ）で固定します。

※ネジを締めすぎると熱膨張により音がすることや、ネジ山が破損する可能性があります。
※デバイドケースを戻す際、ダンパーの開閉がスムーズに行える事を確認してください。
　ダンパーが引っかかる場合は､異音の原因となります。

その他　ファンを外す場合

※デバイドケースを外さないとファンを外すことはできません。

外し方
●ファンを固定している両端の支持金具のネジを緩めます。外す必要はありません。
●ファンを矢印の方向に持ち上げ支持金具から外します。
●ファンを外した後、ファンがスムーズに回るか、ファンの回転にゆがみがないかを確認します。
●ファンのケーシング内に蓄熱体のかけらが入ってしまった場合は除去してください。

取り付け方
●ファンを支持金具に乗せネジで固定します。

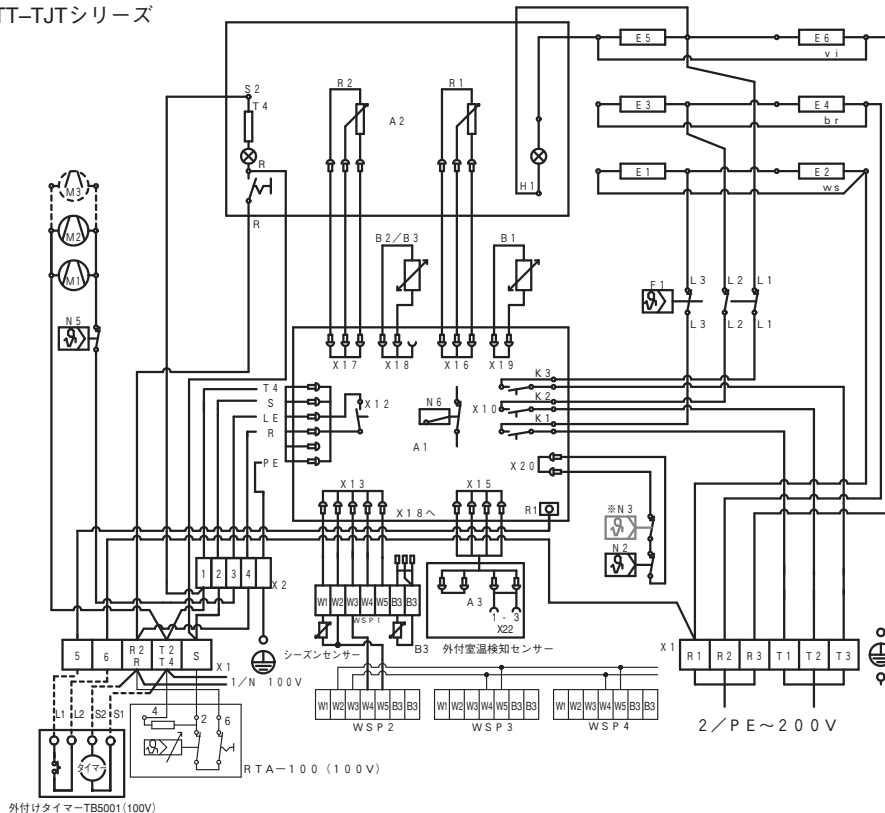
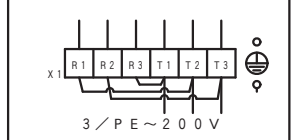
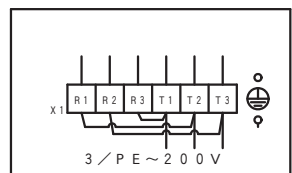
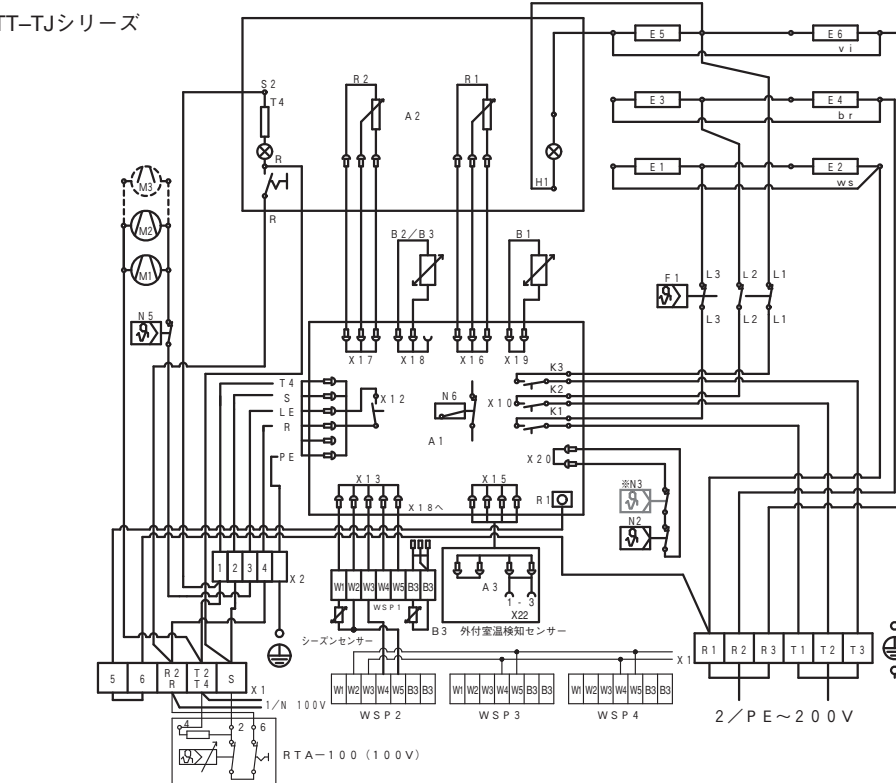
⚠ 注 意

ファンが床に対して水平になるように固定してください。傾けて設置すると異音や軸の磨耗等の問題が発生する可能性があります。下面についているプラスチックの蓋は、共振防止用の部品です。外さないでください。

11 結線の確認

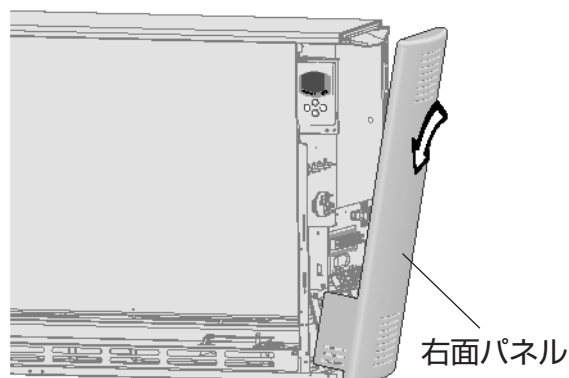
●全ての端子台を必ず増し締めしてください。

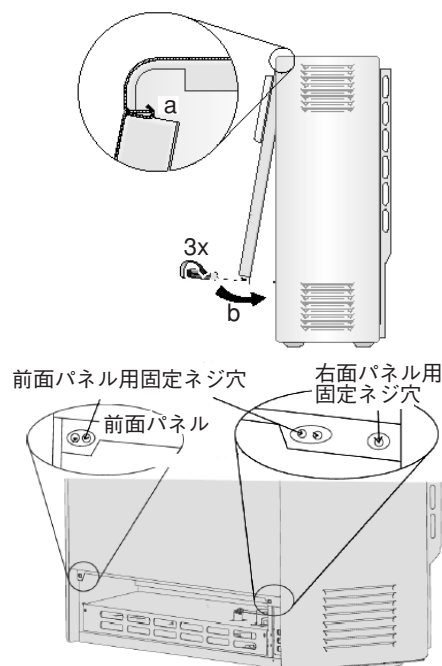
●200Ｖの電源ケーブルは緑と黄色のストライプがアース線です。

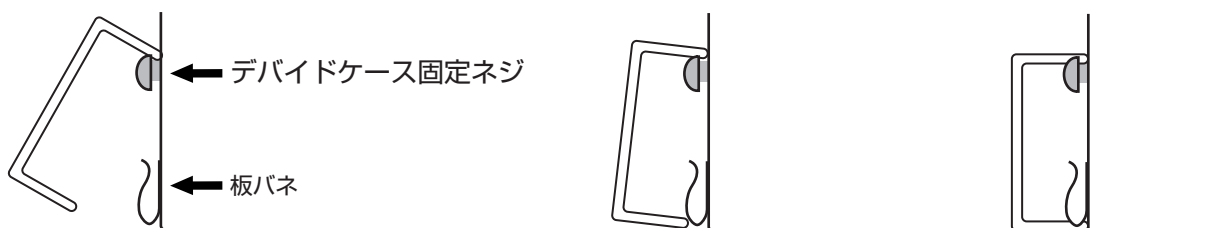
⚠ **注意　電気工事は必ず工事の資格のある方が行なってください。また、電気工事は内線規定他、現地管轄の電力会社の指示にしたがってください。接地工事（３種Ｄ種以上）は必ず行なってください。**

⚠注意　必ず結線図とおりに結線されているかを確認してください。
ケーブルが端子等に触れていないことを確認してください。
電子基板とファンは１００Ｖ、ヒーターは２００Ｖの電源で動作します。
電子基板とファンの回路に誤って２００Ｖを接続しないようにしてください。
コネクタ類の抜き差しを行った場合は確実に接続した事を確認してください。

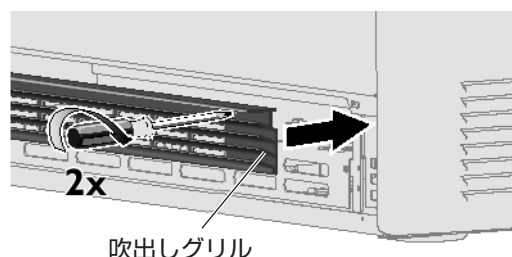
12 本体パネルの取り付けかた

12−1　側面パネルを取り付ける

●矢印の方向から蓄熱暖房器下部の突起に右面パネル下部の穴を差し込みます。
●上記の穴から突起が外れないように、天板パネルに右面パネルを引掛けます。
●右面パネルを上から下に押します。
●左面パネルも同様に取付けてください。
●左面パネルは取付け後、背面側上部をネジ１本（M4×12 ネジと歯付座金）で固定してください。

12−2　前面パネルを取り付ける

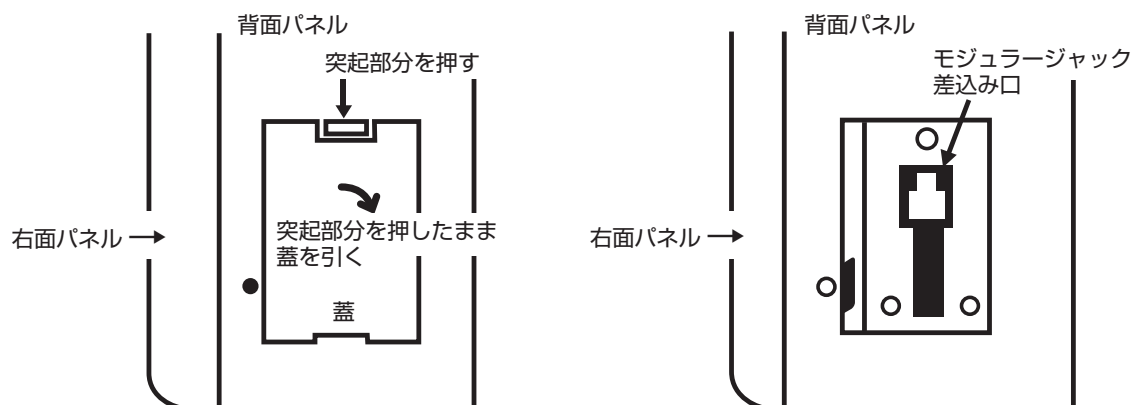
●天板パネルの図「ａ」の部分に前面パネルを引掛けます。
●天板パネルを矢印「ｂ」の方向に押します。
●前面パネル固定用ネジ穴と右面パネル固定用ネジ穴、計３ヵ所をネジで固定します。
（左側のネジ穴にはM4×12ネジ、右側のネジ穴にはM4×12ネジと歯付座金を使用する。）
※天板パネルと前面パネルの間に隙間ができないように注意してください。

12−3　吹出しグリルと吸気グリルを固定する

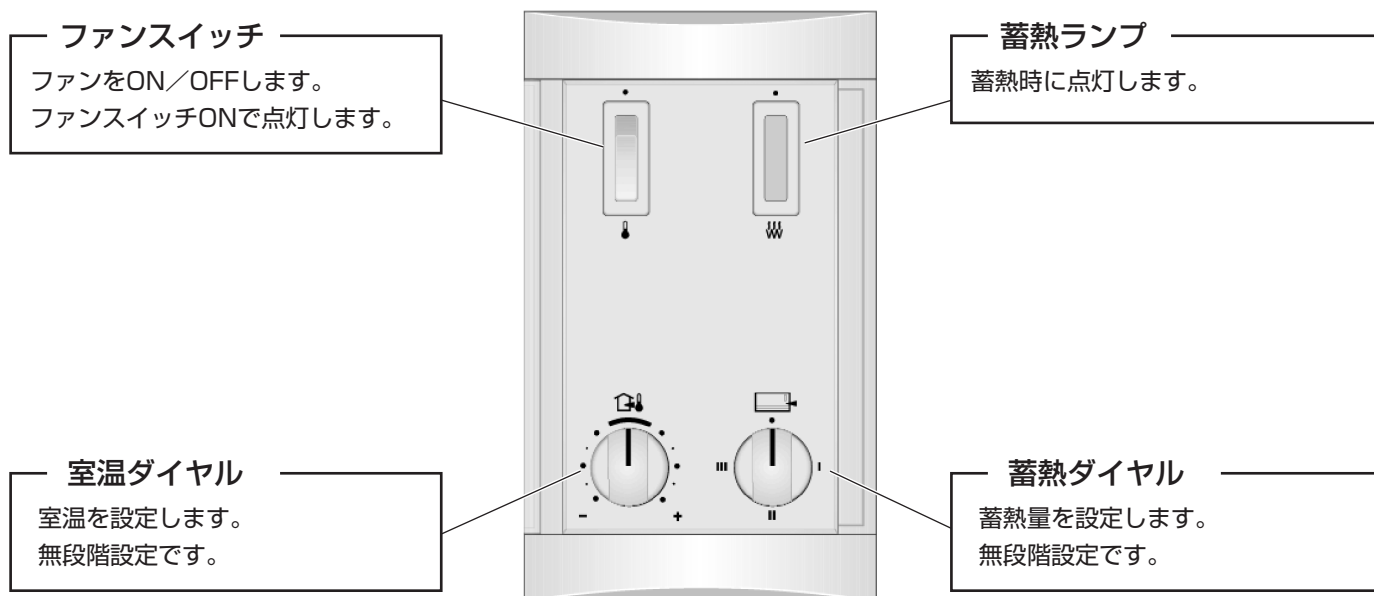
吸気グリル両サイド上部のみぞをデバイスケースを固定しているネジの頭に合わせてから吸気グリル下部を押し込むようにして板バネに取付けます。

吹出しグリルの固定

吹出しグリル固定ネジ（ 2 ケ所）を締め固定します。

13 インターフェイスの接続方法

●操作部側の背面パネル下部にモジュラージャック差込口があります。
　蓋の上部突起を押して、蓋を外します。

●モジュラージャックを差込口に接続するとインターフェイスとパソコンで蓄熱暖房器の設定を変更することができます。

※作業を行うには専用部材が必要です。専用部材以外を使うと故障の恐れがあります。

14 試運転の手順

※ お客様へのお引渡し前に必ず試運転を行なってください

ファン動作の確認

① 100Ｖ電源を蓄熱暖房器に供給してください。
②室温ダイヤルを最大にしてください。
③ファンスイッチを「入」にし、ファンランプが点灯し、ファンが回転して吹出しグリルから風が出ることを確かめてください。
④ファンスイッチを「切」にしてください。

蓄熱動作の確認

⑤２００Ｖのブレーカを「入」にして蓄熱暖房器に電源を供給してください。
⑥蓄熱量の設定を最大にしてください。
⑦蓄熱ランプが点灯することを確認してください。
（すぐに蓄熱ランプが点灯しない場合は、ファンスイッチを「入」にしてファンを回転させてください。）
⑧電圧と、所定の電流が流れていることを確認してください。

シーズンセンサーを接続している場合の試運転

※外気温度が高い場合はシーズンセンサー又は通信ケーブルを外さないと蓄熱動作を確認できません。

吹出しグリルと右面パネルを外し、端子台「Ｗ１」「⊥Ｗ２」又は「Ｗ４」「⊥Ｗ５」にケーブルが接続してある場合。

⬇

端子台「Ｗ１」「⊥Ｗ２」接続したシーズンセンサー又は、端子台「Ｗ４」「⊥Ｗ５」に接続した通信ケーブルを外してから試運転をしてください。

注意事項

電流値と抵抗値表

	電圧（V）	総消費電力(kW)	単相電流値(A)	三相電流値(A)	単相抵抗値(Ω)	三相抵抗値(Ω)
ETT−350TJT/TJ	200	3.5	17.5	10.1	11.4	22.8
ETT−500TJT/TJ		5.0	25.0	14.4	8.0	16.0

⚠ **注 意**

電流値、抵抗値の誤差の許容範囲は±10%です。

大幅に数値が異なる場合は、ヒーターが断線や短絡している可能性があります。結線及び増し締めされているかをご確認の上、お客さまセンターにご連絡ください。

日本スティーベルお客さまセンター
フリーダイヤル **0120-146-497**（固定電話のみ）
●携帯・ＰＨＳの場合 …… ☎022-727-5238

絶縁抵抗

電気用品安全法に基づく技術基準により、本機の絶縁抵抗は１MΩ以上とされております。

使用開始時や長期間放置された後再使用する場合に、蓄熱体が吸湿したことにより、本体内部に結露が生じ、絶縁抵抗が減少したり、運転開始後数時間でブレーカが誤動作する場合があります。この様な場合は結線に誤りがなく、かつ絶縁抵抗が回復していることを確認の上、再度通電を行なってください。

ブレーカが即時に作動する場合は結線の誤りですから結線図に従い再度正しい結線を行なってください。

絶縁抵抗は、100V、200V双方の電源を共に切った状態で行ってください。電源を入れた状態で測定しますと、正しく測定されません。

⚠ **注 意**

本書は必ず取扱説明書と共にお客様にお渡しください。

こんな時は？

こんな時は	確認項目	処置方法
ファンが回らない。	電源が供給されていますか。	100Ｖが供給されていることを確認してください。
	ファンに異物が挟まっていませんか。	ファンに挟まっている異物を取り除いてください。
	室温の設定が低くありませんか。	室温の設定を高くしてください。
	電子基板のコネクタが抜けていませんか。	抜けているコネクタを差し込んでください。
	放熱異常バイメタルが切れていませんか。	放熱異常バイメタルに導通が無い場合は交換してください。
ファンから異音がする。	ファンが歪んでいませんか。	ファンを外し、手で回して軸が歪んでいないかを確認してください。
	床が水平ですか。	床が水平な場所に移設するか、床の処理をやり直す必要があります。

⚠ 注意　熱による膨張・収縮音や機器の動作音は、異常ではありません。

蓄熱しない。	シーズンセンサーを使用していませんか。	外気温が高い場合は、蓄熱しません。 シーズンセンサーを一度外して、再度蓄熱してください。 ※シーズンセンサーの異常ではありません。
	蓄熱量の設定が低くありませんか。	蓄熱量の設定を高くしてください。
	本体が傾いていませんか。	床面に対して垂直に固定してください。
	200Ｖの電源が供給されていますか。	200Ｖの電源を供給してください。
	電子基板のコネクタが抜けかけていませんか。	抜けているコネクタを差し込んでください。
	蓄熱異常バイメタルが切れていませんか。	蓄熱異常バイメタルに導通がない場合は交換してください。
	端子台のケーブルが抜けていませんか。	結線図を参考にしてケーブルを接続してください。
	端子台のケーブルが緩んでいませんか。	全ての端子台の増し締めを行ってください。
	過昇温防止器が切れていませんか。	過昇温防止器の中心のボタンを押した後、他の部品に異常がないかを確認して通電してください。

こんな時は	確認項目	処置方法
電流値が基準値に当てはまらない。	各ヒーターの抵抗値を確認してください。	各ヒーターの端子を片方外し、抵抗値を確認してください。
ブレーカが落ちる。	絶縁抵抗を測ってください。	１MΩ以上であることを確認してください。
	内部配線が、端子や本体に触れていませんか。	触れている部分を離してください。
	内部配線をどこかに挟んでいませんか。	挟まっている部分を外してください。
	電源の接続を間違っていませんか。	アース線が正しく接続されているか確認してください。
	ブレーカの容量を間違っていませんか。	適切な容量のブレーカを使用してください。

保 証 書

本書は、下記〈無料修理規定〉に基づいて無料修理を行うことをお約束するものです。お取り付け日から1年以内に故障が発生した場合は本書をご提示の上、お客さまセンターに修理をご依頼ください。

お客様	フリガナ		
	お名前　様		
販売店名	社名　印		取扱者　印
	〒 住所		
	電話（　　）　－		
お取り付け日	年	月	日

型　名	ETT−350TJT ETT−500TJT ETT−350TJ ETT−500TJ	
製造番号	－　－	
保証期間	本　体	お取り付け日から1ヶ年

本製品は、お取り付け日から1ケ年保証です。
但し、別添のユーザー登録をしていただきますと、該当の蓄熱暖房器に対し保証期間を1年間延長し、設置日より2年の保証とさせていただきます。（尚、ご登録頂いていない機器の保証期間は自動的に1年間とさせていただきます。）

★お客様へ
この保証書をお受けとりになるときは、お取り付け年月日、販売店名が記入され、捺印がされていることを確認してください。保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
この保証書は、本書に明示した期間、次の条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

★保証書にご記入頂いた個人情報について
保証書（写）にご記入頂いた個人情報は、保証期間内のアフターサービス活動及び保証期間以降の安全点検活動のために、記載内容を利用させて頂く場合がございますので予めご了承ください。

（無料修理規定）
1．取扱説明書、本体貼り付けラベル等の注意書に従った正常な使用状態で故障した場合には、表記期間無料修理いたします。
2．保証期間内に故障して無料修理を受ける場合には、お客さまセンターにご依頼の上、修理をお受けになる時に本書をご提示ください。
3．ご転居など、取り付け場所を移動する場合は予めお客さまセンターにご相談ください。
4．保証期間内でも次の場合は有料修理となります。
（A）使用上の不注意、過失による不具合及び不当な修理や改造による故障や損傷の場合。
（B）お取り付け後の移設及びお取付け説明書に基づいた取り付けがなされてなかったことに起因する故障、及び損傷の場合。
（C）火災・地震・水害・落雷・その他の天災地変、公害やガス害（硫化水素ガス）・塩害・異常電圧による故障及び損傷の場合。
（D）指定外の電源（電圧・周波数）で使用した場合の故障や損傷
（E）一般の建物以外（例えば車輌・船舶・粉塵やガスの浮遊する施設）等で使用された場合の故障や損傷。
（F）砂やごみ及びほこり等による不具合、故障、損傷があった場合。
（G）本書の提示が無い場合、お客様名、販売店名、お取り付け日の記入の無い場合、あるいは字句を書き替えられた場合。
5．本書は日本国内においてのみ有効です。
6．本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

STIEBEL ELTRON 日本スティーベル株式会社